

## Ⅱ 児童生徒集計・分析

問1 あなたは学校へ行くのが楽しいですか。

〈小学校〉

学年	性別	とても楽しい	少しは楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない
4年生	男子	353	298	53	8
	女子	412	246	35	7
	小計	765	544	88	15
		54.2%	38.5%	6.2%	1.1%
5年生	男子	334	316	44	17
	女子	335	323	35	2
	小計	669	639	79	19
		47.6%	45.4%	5.6%	1.4%
6年生	男子	341	341	44	8
	女子	341	276	38	3
	小計	682	617	82	11
		49.0%	44.3%	5.9%	0.8%
合計	男子	1,028	955	141	33
		47.7%	44.3%	6.5%	1.5%
	女子	1,088	845	108	12
		53.0%	41.2%	5.3%	0.6%
合計	2,116	1,800	249	45	
		50.3%	42.8%	5.9%	1.1%

- 4年生～6年生すべての学年で、約93%の児童が、「とても楽しい」「少しは楽しい」と肯定的な捉えである。
- 学年で大きな差異は見られない。

〈参考：長岡っ子の家庭生活（平成15年度：長岡市生徒指導研究会）〉

	学校に行くのが楽しいですか				
	とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	全然楽しくない
小学4年	32.8%	35.8%	16.1%	6.3%	3.6%
小学5年	29.6%	39.6%	16.5%	6.5%	2.4%
小学6年	23.5%	44.0%	14.8%	7.9%	3.6%
中学1年	26.3%	43.1%	16.8%	9.5%	3.6%
中学2年	21.4%	39.7%	16.2%	10.5%	4.6%
中学3年	20.7%	40.5%	18.5%	10.0%	5.6%

- 長岡市生徒指導研究会が実施した、「平成15年度長岡市小・中学生実態報告書 長岡っ子の家庭生活」では、小学校4年生から6年生までの平均値は、「とても楽しい」「わりと楽しい」「少し楽しい」は約90%である。「あまり楽しくない」「全然楽しくない」は、約10%であり、学校を楽しみと感じる児童が多少ではあるが増えている。

〈中学校〉

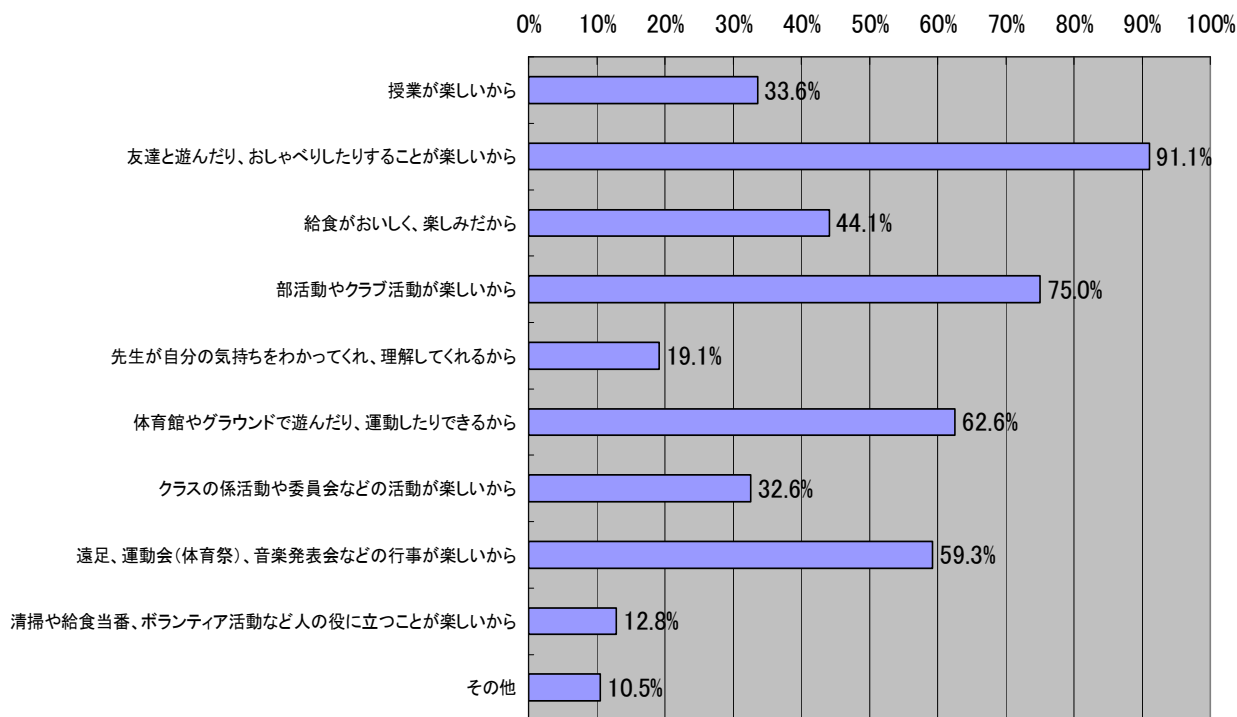
学年	性別	とても楽しい	少しは楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない
1年生	男子	289	256	33	10
	女子	303	214	29	1
	小計	592	470	62	11
		52.2%	41.4%	5.5%	1.0%
2年生	男子	218	275	63	23
	女子	226	257	60	7
	小計	444	532	123	30
		39.3%	47.1%	10.9%	2.7%
3年生	男子	158	314	67	13
	女子	191	294	71	13
	小計	349	608	138	26
		31.1%	54.2%	12.3%	2.3%
合計	男子	665	845	163	46
		38.7%	49.2%	9.5%	2.7%
	女子	720	765	160	21
		43.2%	45.9%	9.6%	1.3%
合計	1,385	1,610	323	67	
		40.9%	47.6%	9.5%	2.0%

- 全体では「とても楽しい」40.9%、「少しは楽しい」47.6%であるが、学年によって大きな差が見られる。
- 「とても楽しい」は、中学1年生で52.2%であるが、学年を増すごとに減少し、3年生で31.1%となる。「とても楽しい」「少しは楽しい」を合わせた数値も、学年を追うごとに減少する。
- 「あまり楽しくない」「楽しくない」という割合は、1年生で6.5%と小学校の数値とあまり変化はないが、2年生では13.6%と倍増し、3年生では14.6%と増加する。
- 「長岡っ子の家庭生活」では、「あまり楽しくない」「全然楽しくない」は、中学1年生13.1%、中学2年15.1%、中学3年15.6%であった。特に中学校1年生で減少しているが、学年を追うごとに楽しくないと思う生徒が増加する傾向は変わらない。

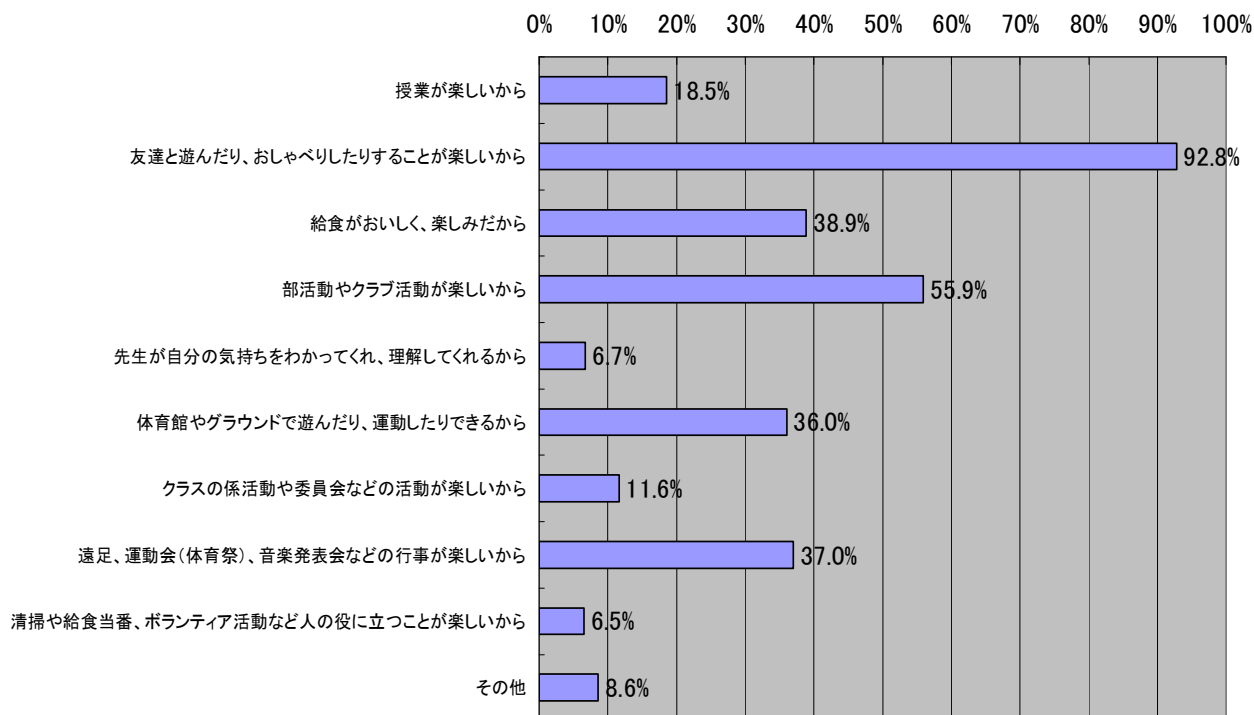
## 問2 「楽しい」と思うのはなぜですか。

※ 「楽しい」「少しは楽しい」と回答した子どもが回答（複数回答可）

### 〈小学校〉



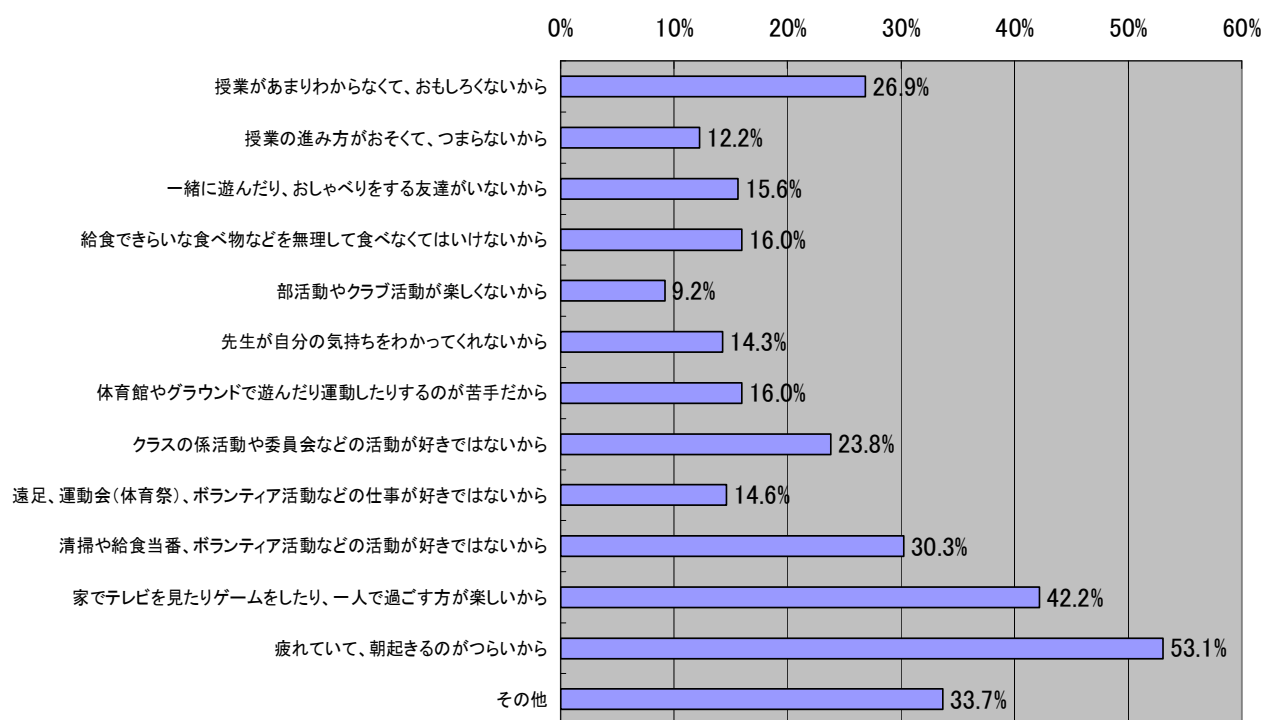
### 〈中学校〉



- 小学生の「楽しい」理由で一番多いのは、「友達と遊んだり、おしゃべりすることが楽しいから」で91.1%である。2番目は「部活動やクラブ活動が楽しいから」、3番目に「体育館やグラウンドで遊んだり、運動できる」と続く。「授業が楽しいから」と答えた児童は、33.6%である。
- 中学生は、「友達と遊んだり、おしゃべりすることが楽しいから」は、92.8%と小学生と変わらない数値である。また、「部活動やクラブ活動が楽しいから」も55.9%であるが、他の項目についてはすべて小学生より低い。「授業が楽しいから」については、18.5%と小学校よりかなり減少する。中学校になると、学習内容が難しくなり、理解や定着にも差が出てくるが、学校では「楽しい授業」「わかる授業」の実践を心がけていく必要がある。

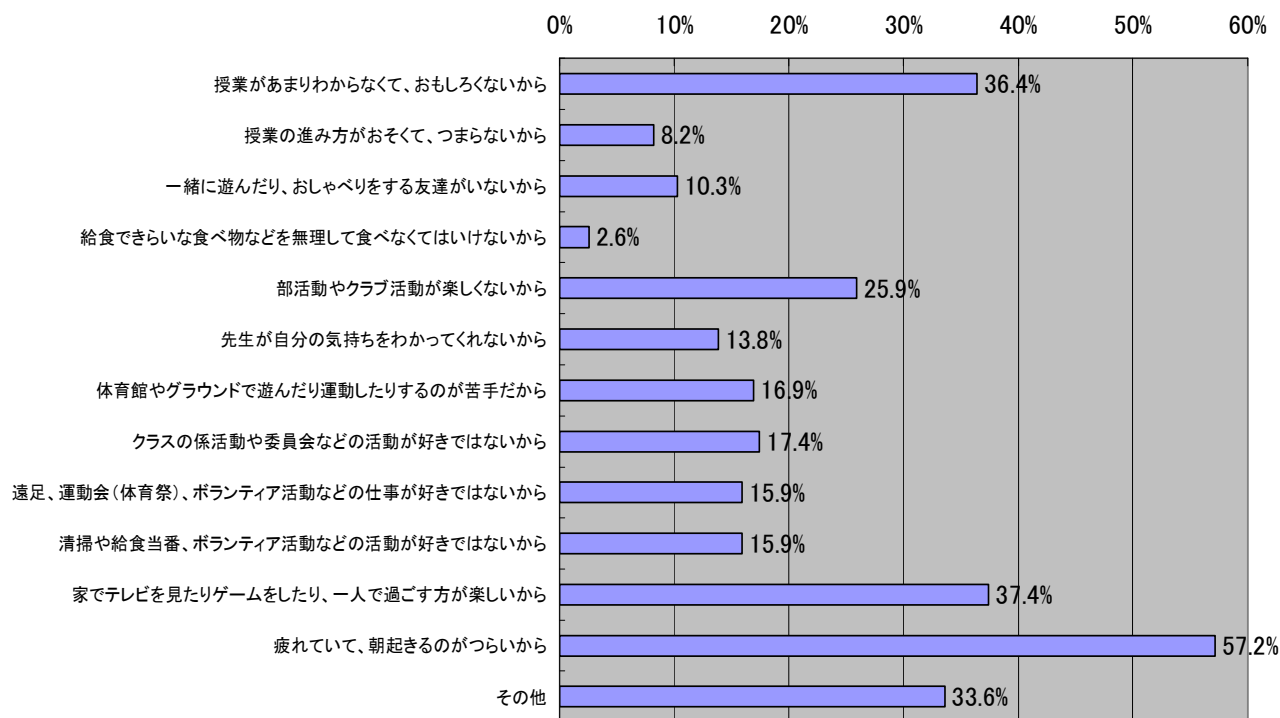
### 問3 「楽しくない」「あまり楽しくない」と思うのはなぜですか。

※ 「楽しくない」「あまり楽しくない」と答えた子どものみ回答（複数回答可）  
〈小学生〉



- 小学生の「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」という児童の理由の一番目は、「疲れていて、朝起きるのがつらいから」で53.1%である。続いて、「家でテレビを見たりゲームをしたり、一人で過ごす方が楽しいから」が42.2%である。原因の上位は学校や学級内のことというより、個人にかかわる部分である。「授業があまりわからなくて、おもしろくないから」は、26.9%で、「清掃や給食当番、ボランティア活動などの仕事が好きでないから」が上回っている。

## 〈中学生〉



- 中学生の「楽しくない」「あまり楽しくない」理由も、「疲れていて、朝起きるのがつらいから」が一番高く、57.2%である。「家でテレビを見たりゲームをしたり、一人で過ごす方が楽しいから」は小学生の割合より減り37.4%であるが、「授業があまりわからなくて、つまらないから」が、36.4%と小学校と比較すると増加する。
- 問4の「授業で「わかる」「できる」と感じていますか」の回答も、中学生になると学年を上がると「とても感じている」「少しは感じている」が減少する。「学校が楽しくない」という割合が、中学校では学年が上がるごとに増加することからも、「わかる授業」「たのしい授業」の実践が、生徒の学校生活の充実に大きくかかわっているといえる。

## 〈参考〉中学生の平日の就寝時間（問11）

平日(土曜、日曜はのぞく)の夜は、何時ごろに寝てますか		
	11時頃	12時ごろ(それより遅い)
1年生	47.3%	8.9%
2年生	51.3%	24.1%
3年生	48.2%	39.4%

- 特に中学2年生、3年生は平日の就寝時間が非常に遅い子どもが多い。夜型の生活が朝の起床や昼間の活力等に影響を与えているのではないかと考えられる

問4 あなたは、授業で「わかる」「できる」と感じていますか。

〈小学校〉

学年	性別	とても感じている	少しは感じている	あまり感じていない	まったく感じていない
4年生	男子	272	374	56	9
	女子	255	384	56	5
	小計	527	758	112	14
		37.3%	53.7%	7.9%	1.0%
5年生	男子	222	396	74	17
	女子	214	403	77	4
	小計	436	799	151	21
		31.0%	56.8%	10.7%	1.5%
6年生	男子	229	433	59	10
	女子	170	408	73	4
	小計	399	841	132	14
		28.8%	60.7%	9.5%	1.0%
合計	男子	723	1,203	189	36
		33.6%	55.9%	8.8%	1.7%
	女子	639	1,195	206	13
		31.1%	58.2%	10.0%	0.6%
合計	1,362	2,398	395	49	
		32.4%	57.0%	9.4%	1.2%

- 全体では「とても感じている」32.4%、「少しは感じている」57.0%で、合計すると89.4%の児童は、授業である程度「わかる」「できる」と感じている。
- 「あまり感じていない」「まったく感じていない」は、10.6%である。学年、男女別で大きな差異はない。

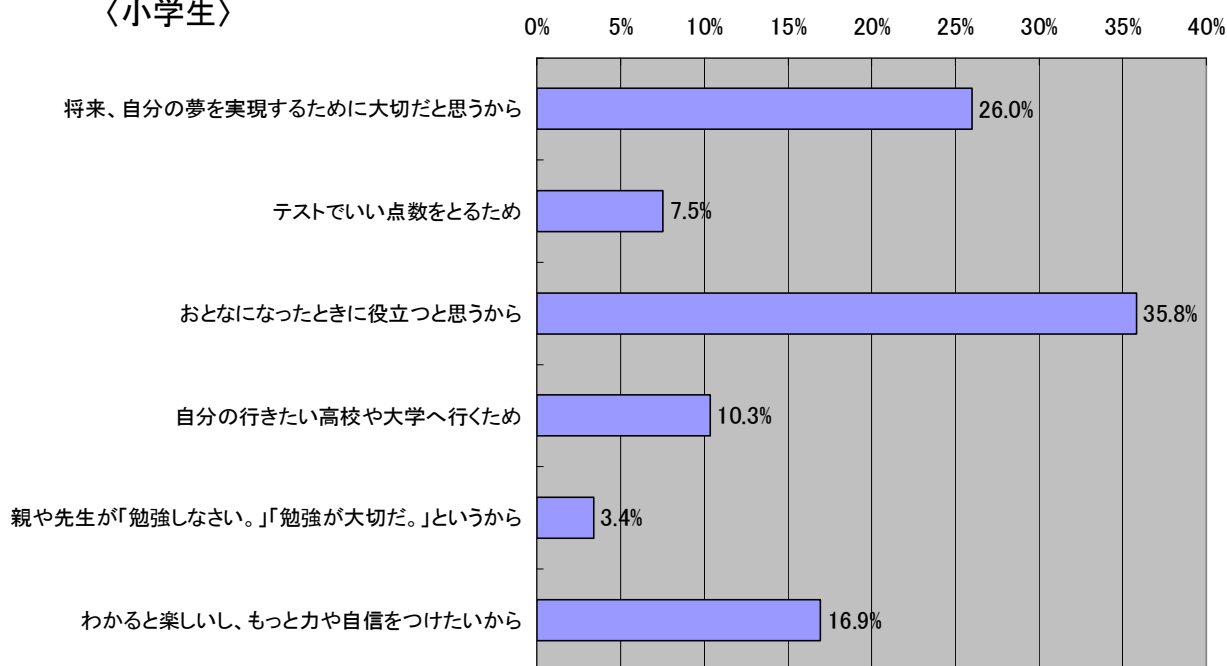
〈中学校〉

学年	性別	とても感じている	少しは感じている	あまり感じていない	まったく感じていない
1年生	男子	141	351	83	10
	女子	89	386	67	6
	小計	230	737	150	16
		20.3%	65.0%	13.2%	1.4%
2年生	男子	113	338	103	22
	女子	53	371	109	21
	小計	166	709	212	43
		14.7%	62.7%	18.8%	3.8%
3年生	男子	81	347	100	24
	女子	54	361	130	20
	小計	135	708	230	44
		12.1%	63.4%	20.6%	3.9%
合計	男子	335	1,036	286	56
		19.6%	60.5%	16.7%	3.3%
	女子	196.0	1118.0	306.0	47.0
		11.8%	67.1%	18.4%	2.8%
合計	531	2,154	592	103	
		15.7%	63.7%	17.5%	3.0%

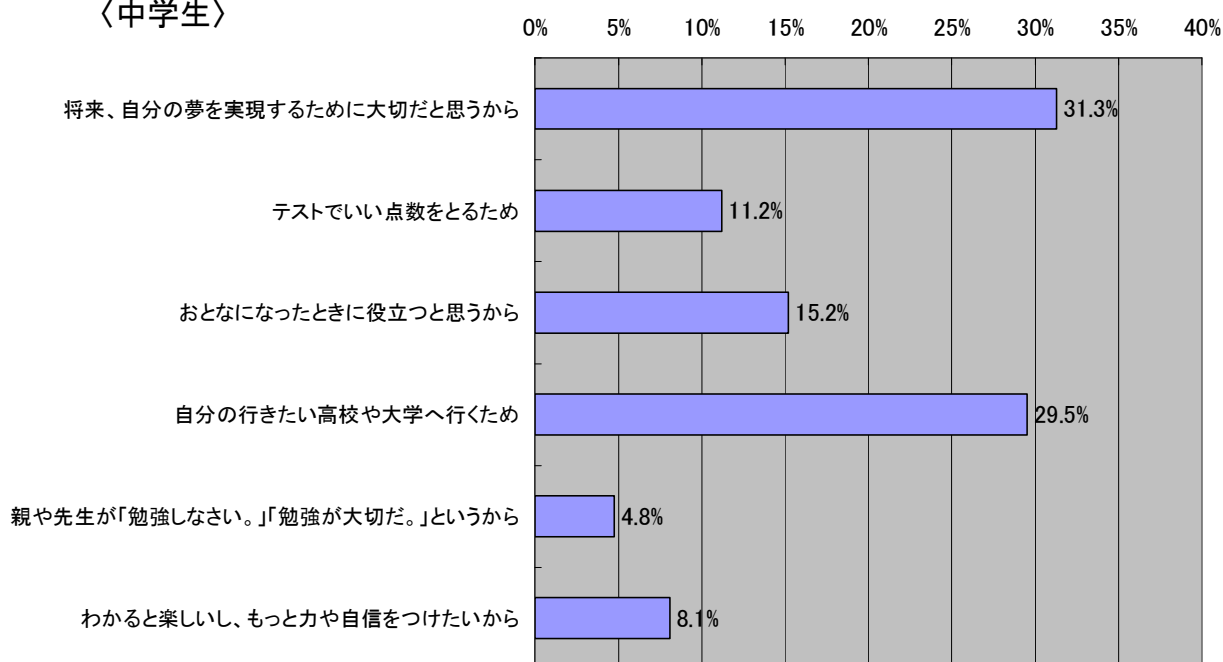
- 全体では「とても感じている」15.7%、「少しは感じている」63.7%で、合計すると79.4%の生徒が、授業である程度「わかる」「できる」と感じている。
- 「あまり感じていない」「まったく感じていない」は、学年の進むごとに増加し、中学校3年生では、約1/4の生徒が、授業で「わかる」「できる」と感じていない。「楽しい授業」とともに、「わかる」「できる」という実感を与える授業が求められている。

問5 あなたは今、なんのために勉強していると思いますか。気持ちを教えてください。（一番強く思っていることひとつに○をつけてください。）

〈小学生〉



〈中学生〉



- 小学生は、「おとなになったときに、役立つと思うから」が35.8%で一番多い。次は、「将来、自分の夢を実現するために大切だと思うから」で、26.0%である。
- 中学生は、「将来、自分の夢を実現するために大切だと思うから」が、31.3%で一番多く、次は、「自分の行きたい高校や大学へ行くため」が29.5%である。児童生徒の発達段階に応じて、何のために勉強しているかという意識も変わってくる。
- 中学生で、勉強するのは、「将来、自分の夢を実現するために大切だと思うから」という生徒が一番多いということからも、将来の夢や目標を持つことが学習意欲につながる大きな要因であるといえる。
- 中学生3年生では、「自分の行きたい高校や大学へ行くため」が、38.3%と一番高い理由となる。進路を現実の問題として受け止めているとともれるが、進学に偏った進路指導になっていないかなどを見直すことも大切である。

#### 問6 あなたの部活動の加入状況について質問します。(中学生のみ回答)

学年	性別	運動部に入っている	文科系の部に入っている	入っていない
1年生	男子	509	45	22
	女子	367	164	16
	小計	876	209	38
		78.0%	18.6%	3.4%
2年生	男子	522	33	21
	女子	331	199	24
	小計	853	232	45
		75.5%	20.5%	4.0%
3年生	男子	460	33	58
	女子	303	199	63
	小計	763	232	121
		68.4%	20.8%	10.8%
合計	男子	1,491	111	101
		87.6%	6.5%	5.9%
	女子	1,001	562	103
		60.1%	33.7%	6.2%
	合計	2,492	673	204
		74.0%	20.0%	6.1%

- 全体では、「運動部に入っている」は、74.0%であり、「文科系の部に入っている」は、20.0%である。また、部活動に入っていない生徒は6.1%である。部活動の入部については、希望入部制の学校も多いが、入部していない生徒の放課後の過ごし方がある程度把握しておく必要があるのではないかとと思われる。
- 3年生の運動部加入率が低いのは、アンケート実施が6月下旬から7月上旬であったため、市内大会が終了し地区大会に進出できなかった生徒が、「引退」(実際の活動終了)を「入っていない」と捉え、回答した生徒がいたためではないかと考えられる。



問7 あなたは、朝起きたときや夜寝る前に家の人にあいさつをしますか。

〈小学校〉

学年	性別	かならずする	だいたいする	あまりしない	ほとんどしない
4年生	男子	351	247	61	52
	女子	403	215	53	30
	小計	754	462	114	82
		53.4%	32.7%	8.1%	5.8%
5年生	男子	326	225	96	60
	女子	330	260	75	27
	小計	656	485	171	87
		46.9%	34.7%	12.2%	6.2%
6年生	男子	278	291	102	62
	女子	306	235	84	33
	小計	584	526	186	95
		42.0%	37.8%	13.4%	6.8%
合計	男子	955	763	259	174
		44.4%	35.5%	12.0%	8.1%
	女子	1,039	710	212	90
		50.7%	34.6%	10.3%	4.4%
	合計	1,994	1,473	471	264
		47.5%	35.1%	11.2%	6.3%

〈中学校〉

学年	性別	あなたは、朝起きたときや夜寝る前に家の人にあいさつをしますか			
学年	性別	かならずする	だいたいする	あまりしない	ほとんどしない
1年生	男子	192	204	111	78
	女子	205	223	77	44
	小計	397	427	188	122
		35.0%	37.7%	16.6%	10.8%
2年生	男子	147	199	110	117
	女子	163	250	78	63
	小計	310	449	188	180
		27.5%	39.8%	16.7%	16.0%
3年生	男子	126	182	108	134
	女子	146	223	101	97
	小計	272	405	209	231
		24.4%	36.3%	18.7%	20.7%
合計	男子	465	585	329	329
		27.2%	34.3%	19.3%	19.3%
	女子	514	696	256	204
		30.8%	41.7%	15.3%	12.2%
	合計	979	1,281	585	533
		29.0%	37.9%	17.3%	15.8%

- 小学生は「かならずする」47.5%、「だいたいする」35.1%であり、合計すると82.6%の児童が、朝起きたときや夜寝る前に家の人にあいさつをしている。
- 男女の比較では、どちらかという女子の方が高い。また、小学生も学年を追うごとにしない生徒の割合が増え、6年生になると「あまりしない」「ほとんどしない」を合計すると、20.2%になる。
- 中学生は、「かならずする」「だいたいする」は66.9%であるが、学年を追うごとにしなくなる傾向は小学校と同様であり、中学校3年生になると39.4%の生徒が朝起きたときや夜寝る前に家の人にあいさつをあまりしていない。
- 夜更かしや登校、出勤時間等の違いで、家族が顔を合わせないすれ違いの生活も要因のひとつであると考えるが、学年が上がるにつれ、保護者、子どもも「特にしなくてもいい」と考える傾向があるのではないかと予想される。

## 問8 朝食はどうしていますか。

### 〈小学校〉

学年	性別	いつも食べる	たまに食べないことがある	食べない時と食べる時が半々	ほとんど食べない
4年生	男子	593	95	14	9
	女子	597	75	20	7
	小計	1,190	170	34	16
		84.4%	12.1%	2.4%	1.1%
5年生	男子	603	70	24	13
	女子	598	79	14	6
	小計	1,201	149	38	19
		85.4%	10.6%	2.7%	1.4%
6年生	男子	636	76	15	6
	女子	563	69	22	4
	小計	1,199	145	37	10
		86.2%	10.4%	2.7%	0.7%
合計	男子	1,832	241	53	28
		85.1%	11.2%	2.5%	1.3%
	女子	1,758	223	56	17
		85.6%	10.9%	2.7%	0.8%
	合計	3,590	464	109	45
		85.3%	11.0%	2.6%	1.1%

- 「いつも食べる」は、85.3%である。「たまに食べないこともある」は11.0%であり、学年による大きな差は見られない。
- 保護者意識調査の、「毎日朝食を食べさせる」という設問への保護者の回答と子どもの実際の生活の数値はほとんど同じであり、朝食に関しては親の意識が子どもの生活に密接にかかわっていることが数値にも表れている。

〈中学校〉

学年	性別	朝食は、どうしていますか			
学年	性別	いつも食べる	たまに食べないことがある	食べない時と食べる時が半々	ほとんど食べない
1年生	男子	488	61	24	12
	女子	469	54	19	8
	小計	957	115	43	20
		84.3%	10.1%	3.8%	1.8%
2年生	男子	468	65	17	22
	女子	450	70	21	13
	小計	918	135	38	35
		81.5%	12.0%	3.4%	3.1%
3年生	男子	431	66	21	34
	女子	457	70	24	17
	小計	888	136	45	51
		79.3%	12.1%	4.0%	4.6%
合計	男子	1,387	192	62	68
		81.2%	11.2%	3.6%	4.0%
	女子	1,376	194	64	38
		82.3%	11.6%	3.8%	2.3%
	合計	2,763	386	126	106
	81.7%	11.4%	3.7%	3.1%	

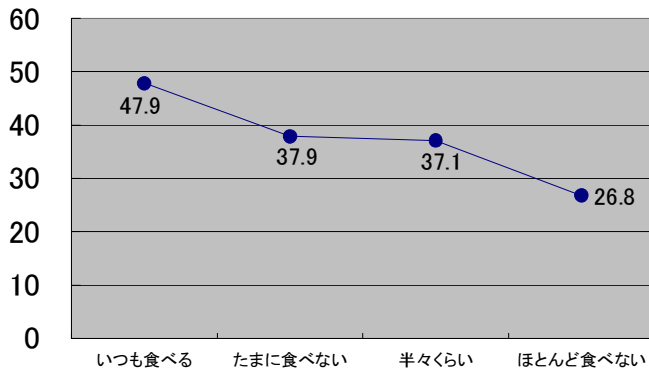
- 全体では「いつも食べる」81.7%、「たまに食べないことがある」11.4%であるが、「いつも食べる」は、学年が上がると若干ではあるが、減少する傾向にある。
- 食事に関する項目は、小学校4年生から中学校3年生までの数値がほとんど変わらない。このことは、小さな頃に身に付いた生活習慣が年齢が上がってそのまま引継がれていること示している。特に、食事に関する基本的な生活習慣は、幼少期にしっかりと身に付ける事項であり、保護者とともに、教職員もそれを意識して取り組む必要がある。

〈参考〉本調査からわかる朝食の摂取状況とその他の項目の関連

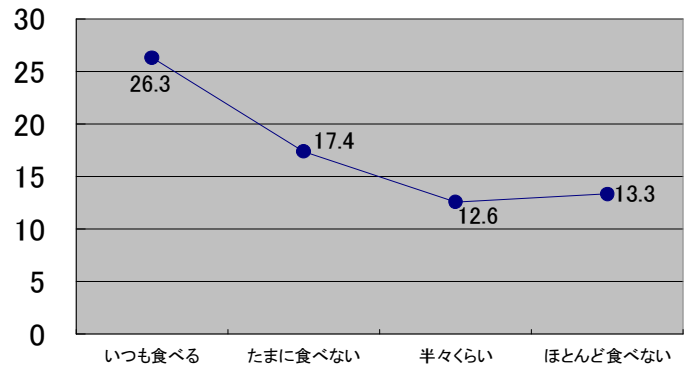
(朝食の摂取状況の違いによる各項目の人数の割合：小4から中3までの総計)

◇ 学校生活や授業について

「学校に行くのがとても楽しい」

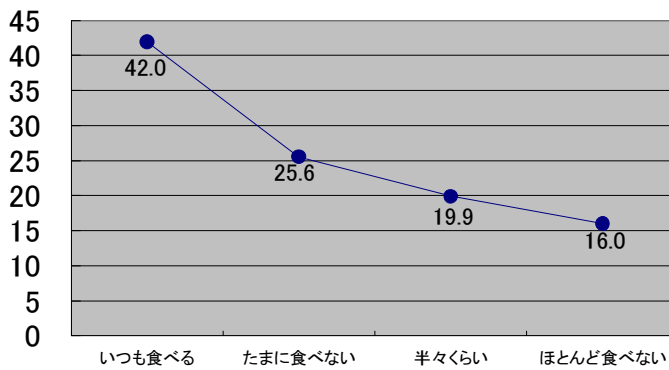


「授業で「わかる」「できる」ととても感じている」

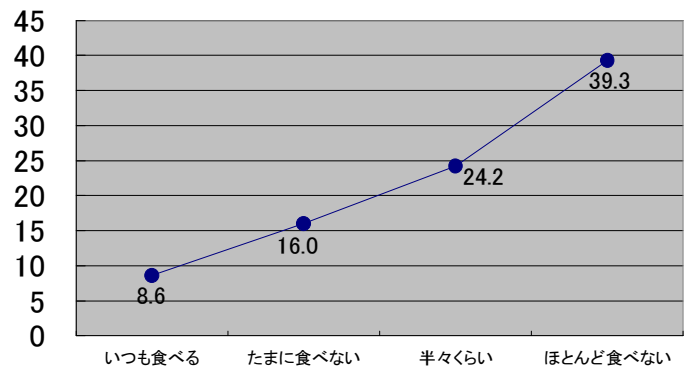


◇ 朝起きた時や夜寝る前に家の人へのあいさつ

「必ずする」

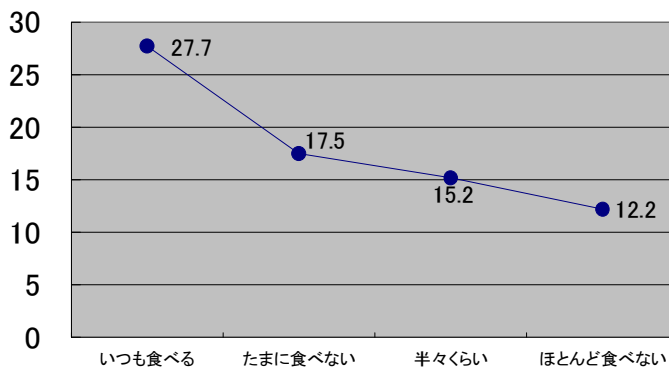


「ほとんどしない」

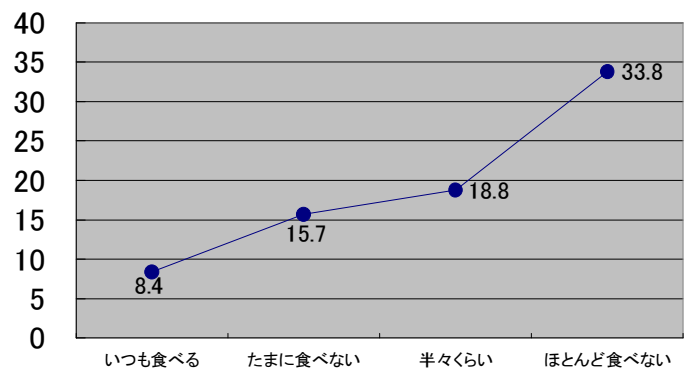


◇ 家庭学習のようす

「宿題がなくてもほとんど毎日する」

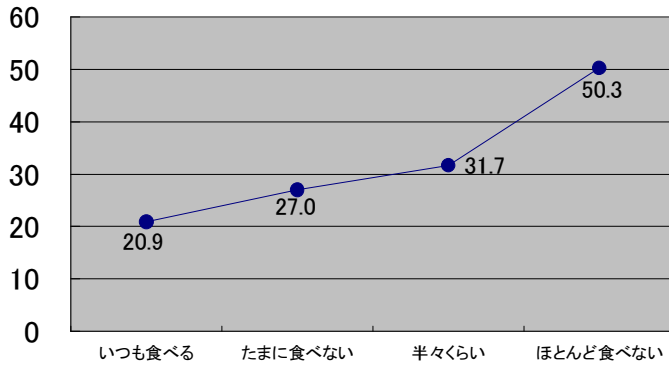


「宿題があってもしないことが多い」

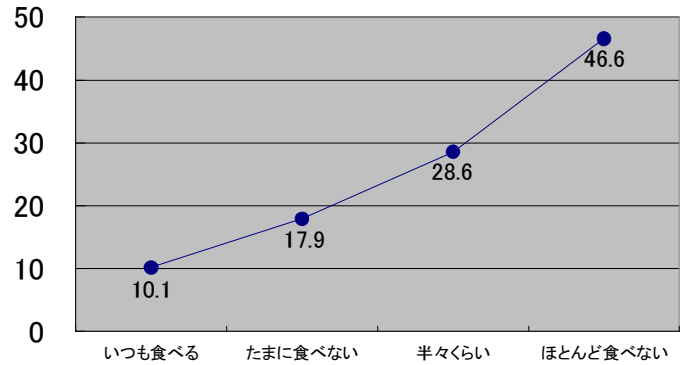


◇ テレビの視聴時間や就寝時間について

「平日テレビを3時間以上見る」



「平日寝るのは12時あるいはそれよりも遅い」



- 「毎日朝食をとる」ことは、毎日、朝食を食べられるような規則正しい生活ができているという表れであり、児童生徒の生活習慣の質的な面の端的な指標である。本調査においても、「朝食の摂取状況」とその他の生活習慣について大きな関連があることが上記参考から明らかになった。
- 生活習慣と学力の間にも、密接な関係があると指摘されており、食習慣をはじめとする基本的な生活習慣の定着は家庭生活における非常に重要な部分である。その重要性を学校から保護者に積極的に啓発する必要がある。
- 家庭教育を見直す視点として、文部科学省が推奨している、「早寝、早起き、朝ごはん運動」について、その必要性を保護者が認識し、各家庭で心がけていく必要がある。

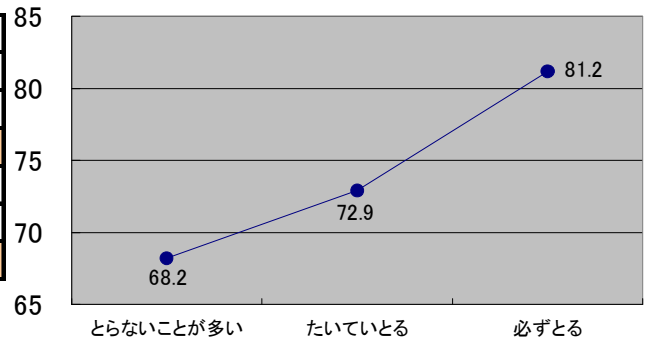
〈参考〉朝食と学力の関係

(平成16年度「全県学力調査」報告書 新潟県教育委員会)

「小学校5年生と中学校2年生」

学年	朝食はとりますか	全教科の正答率の平均
小学校5年	とらないことが多い	68.2
	たいていとる	72.9
	必ずとる	81.2
中学2年生	とらないことが多い	57.9
	たいていとる	65.0
	必ずとる	70.9

「小学校5年生グラフ」



問9 朝食は、だれといっしょに食べていますか。

	ほとんど家族といっしょ	親や家族といっしょの日が多い	兄弟・姉妹だけで食べるが多い	一人で食べるが多い
小学4年	48.4%	26.5%	16.5%	8.7%
小学5年	45.2%	25.0%	19.0%	10.8%
小学6年	39.0%	29.1%	19.2%	12.7%
中学1年	37.3%	24.2%	18.9%	19.6%
中学2年	31.8%	25.1%	14.8%	28.4%
中学3年	29.5%	22.6%	14.0%	33.9%

- 「ほとんど家族といっしょ」の割合は、小学4年生の48.4%を最高に、学年が上がるごとに減少し、中学3年生では29.5%となる。
- 「一人で食べるが多い」は、小学4年生では8.7%であるが、中学3年生では33.9%となり、「ほとんど家族といっしょ」よりも多い割合となる。
- 「親や家族といっしょの日が多い」「兄弟・姉妹だけで食べるが多い」は、学年による大きな差はない。
- 小学生でも、25%～32%の児童が、朝食は親と食べていない現状がある。親の出勤時間、子どもの登校時間のずれがこのような状況を生んでいると考えられるが、保護者の出勤時間、児童生徒の登校時間も、各家庭によりほぼ一定であることを考えると、学年の上昇による数値の大きな変化は、学年が上がると、子どもの生活に親があまり干渉しなくなることの表れと見ることもできる。

問10 夕食は、だれといっしょに食べますか。

	ほとんど家族といっしょ	親や家族といっしょの日が多い	兄弟・姉妹だけで食べるが多い	一人で食べるが多い
小学4年	66.5%	26.5%	4.6%	2.4%
小学5年	65.9%	27.2%	4.5%	2.5%
小学6年	69.8%	24.8%	3.6%	1.8%
中学1年	64.8%	26.2%	4.2%	4.9%
中学2年	61.3%	27.0%	4.3%	7.5%
中学3年	52.9%	32.1%	6.1%	8.9%

- 小学校では、約94%の児童が「ほとんど家族といっしょ」「親や家族といっしょの日が多い」と回答している。
- 中学校でも、朝食の状況ほど小学校との差は小さくなく、兄弟だけや一人で食べる割合も少なくなる。夕食は家族で食べようと努力している家庭が多いことが伺える。

問 1 1 平日（土曜日や日曜日をのぞきます。）の夜は、何時ころに寝ていますか。

〈小学校〉

学年	性別	9時ころ(それより前)	10時ころ	11時ころ	12時ころ(それより遅い)
4年生	男子	228	371	87	23
	女子	207	403	84	6
	小計	435	774	166	29
		31.0%	55.1%	11.8%	2.1%
5年生	男子	150	404	139	20
	女子	108	447	128	12
	小計	258	851	267	32
		18.3%	60.4%	19.0%	2.3%
6年生	男子	130	408	173	23
	女子	73	387	177	21
	小計	203	795	350	44
		14.6%	57.1%	25.1%	3.2%
合計	男子	508	1,183	399	66
		23.6%	54.9%	18.5%	3.1%
	女子	388	1,237	389	39
		18.9%	60.3%	18.9%	1.9%
合計	896	2,420	783	105	
		21.3%	57.6%	18.6%	2.5%

〈中学生〉

学年	性別	9時ころ(それより前)	10時ころ	11時ころ	12時ころ(それより遅い)
1年生	男子	40	250	252	38
	女子	23	180	281	62
	小計	63	430	533	100
		5.6%	38.2%	47.3%	8.9%
2年生	男子	23	146	277	128
	女子	12	96	301	143
	小計	35	242	578	271
		3.1%	21.5%	51.3%	24.1%
3年生	男子	11	62	268	209
	女子	5	61	271	231
	小計	16	123	539	440
		1.4%	11.0%	48.2%	39.4%
合計	男子	74	458	797	375
		4.3%	26.9%	46.8%	22.0%
	女子	40	337	853	436
		2.4%	20.2%	51.2%	26.2%
合計	114	795	1,650	811	
		3.4%	23.6%	49.0%	24.1%

- 小学校と中学校の違いや、学年が上がるにつれ就寝する時間が遅くなる傾向は一般的な傾向であると考えられる。しかし、「11時ころ」「12時ころ（それより遅い）」を見ると、小学校でも4年生13.9%、5年生21.3%、6年生28.3%と増加している。子どもの生活が夜型になってきている傾向が伺える。
- 中学生では、「12時（それより遅い）」が2年生から急増し、24.1%となる。さらに3年生では39.4%となり、約4割近い生徒が12時頃、あるいは12時より遅い時間に就寝している。

〈参考〉中学2、3年生の家庭学習のようすと平日のテレビ等の視聴時間

	宿題があるときだけやる	宿題があってもしないことが多い
中学2年	32.1%	16.4%
中学3年	31.0%	19.4%

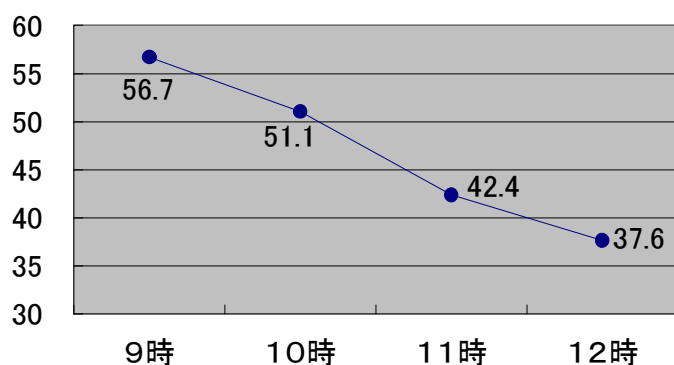
	2時間30分以上	3時間以上
中学2年	14.2%	28.8%
中学3年	12.0%	25.3%

- 問12では、中学校2、3年生の約50%の生徒が家庭学習は「宿題があるときだけやる」か「宿題があってもしないことが多い」と回答している。また、問14からは、4人に一人の生徒が、平日のテレビ等を3時間以上見ていることがわかる。これらのことから、夜型の生活や就寝時間が遅くなる要因として、テレビ等のメディアの影響が大きいのではないかと考えられる。

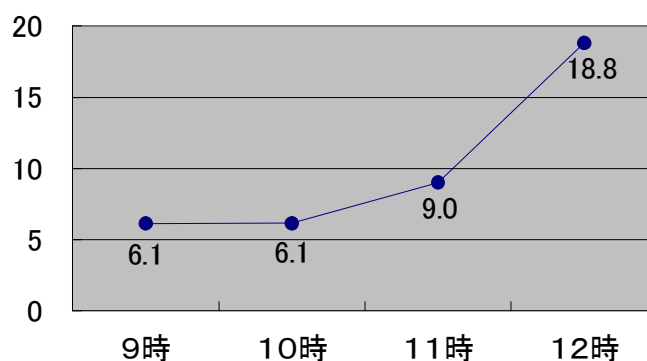
〈参考〉本調査からわかる就寝時間とその他の項目との関連  
(就寝時間の違いによる各項目の人数の割合)

【小学生】

- ◇ 学校での様子や授業や勉強について  
「とても楽しい」



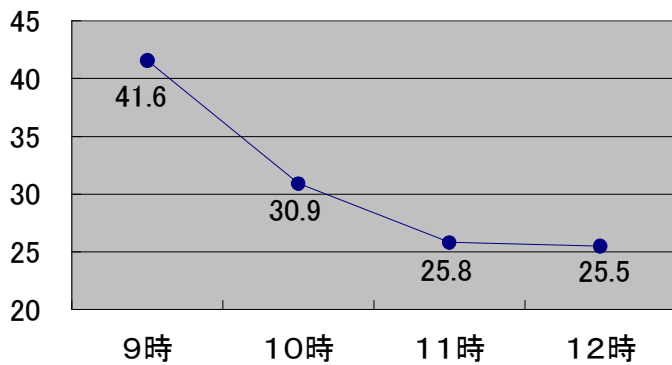
- 「あまり楽しくない」
- 「まったく楽しくない」



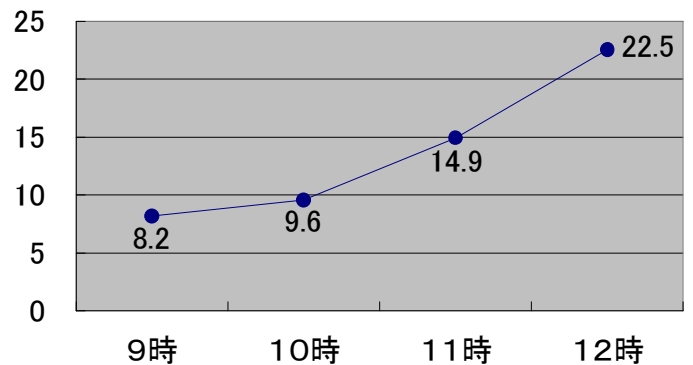
- 就寝時間が遅くなるほど、「学校がとても楽しい」と感じる割合が減少する。また、12時頃に就寝している子どもの「あまり楽しくない」あるいは「まったく楽しくない」と感じている割合は、就寝時間の早い子どもの約3倍である。



◇ 授業で「わかる」「できる」と感じているか  
「とても感じている」

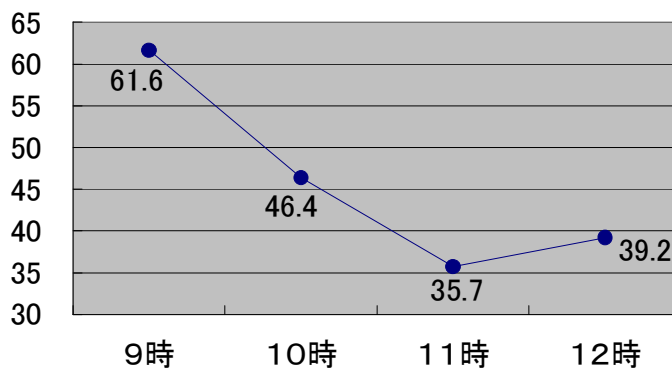


「あまり感じている」  
「まったく感じている」

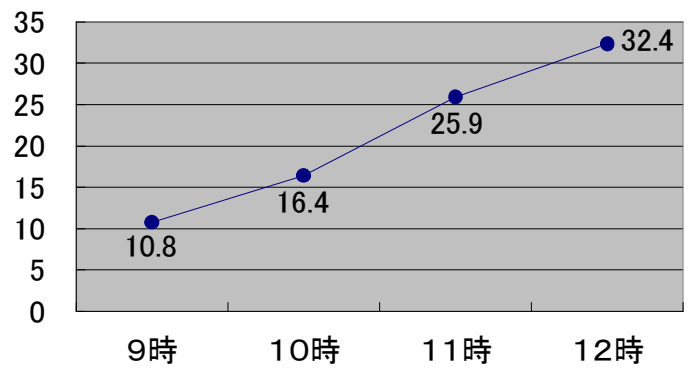


○ 就寝時間が早い子どもほど、授業で「わかる」「できる」と感じている割合が高い。

◇ 朝起きたときや夜寝る前などの家の人へのあいさつ  
「必ずする」

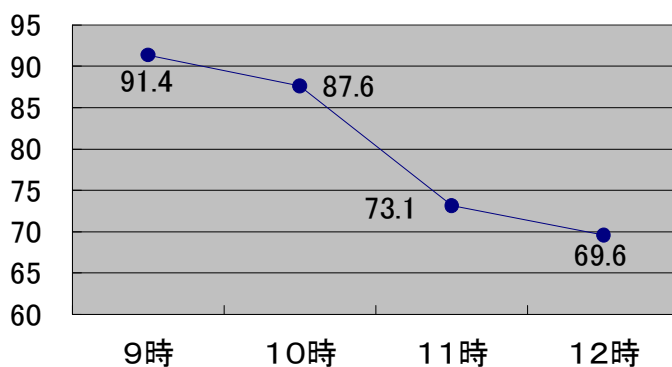


「あまりしない」「ほとんどしない」

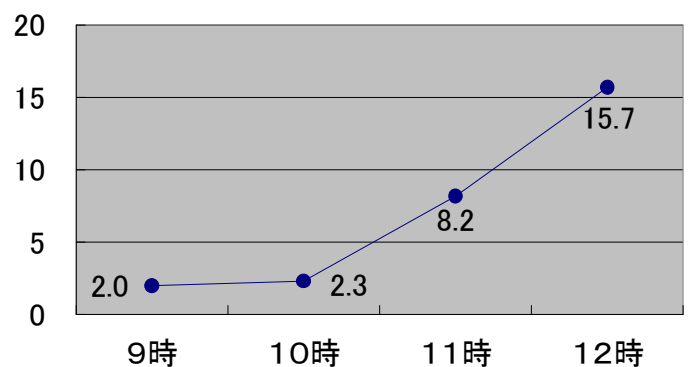


○ 11時、12時となると親も寝ているため「おやすみ」のあいさつができないことが予想されるが、朝起きた時や夜寝る前のあいさつは、就寝時間が早い子どもほど定着している傾向があるといえる。

◇ 朝食の様子  
「いつも食べる」



「食べる時と食べない時が半々」  
「ほとんど食べない」

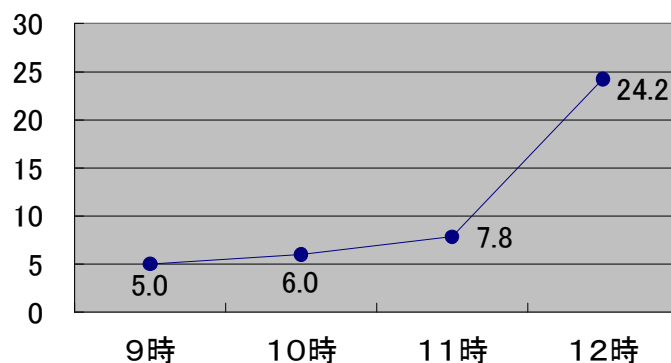
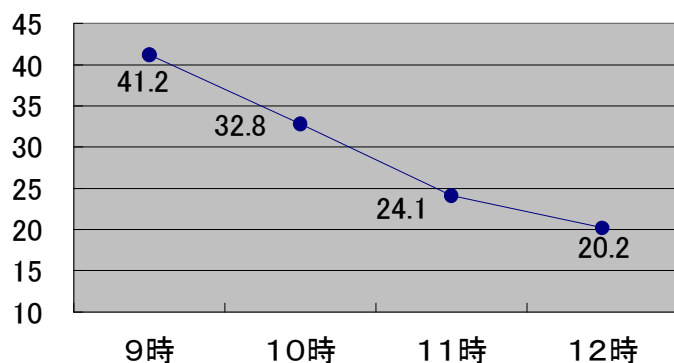


- 就寝時間が遅い子どもほど、朝食を「いつも食べる」という割合が少ない。これらのことから、朝の生活や基本的な生活習慣の定着に就寝時間や睡眠時間は、大きな関連があるといえる。

◇ 家庭学習のようす

「宿題がなくてもほとんど毎日する」

「宿題があってもしないことが多い」

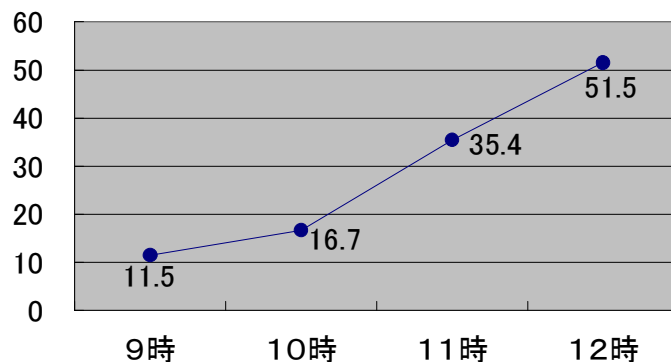
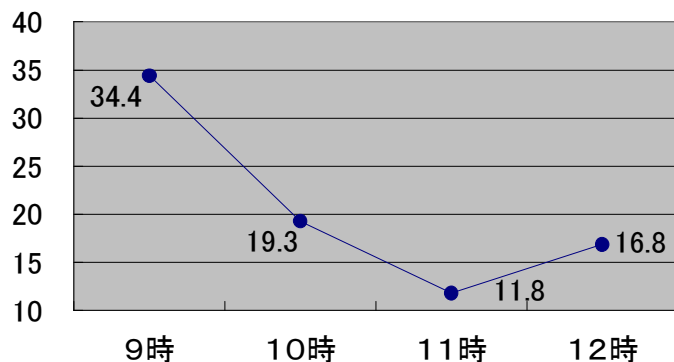


- 家庭学習について「宿題があってもしないことが多い」割合は、就寝時間が遅くなるほど高くなり、「12時」「12時より遅い時間」に寝ている子どもでは激増する。

◇ 平日のテレビやビデオ、DVDなどの視聴時間

「ほとんど見ない」「1時間以内」

「3時間以上」

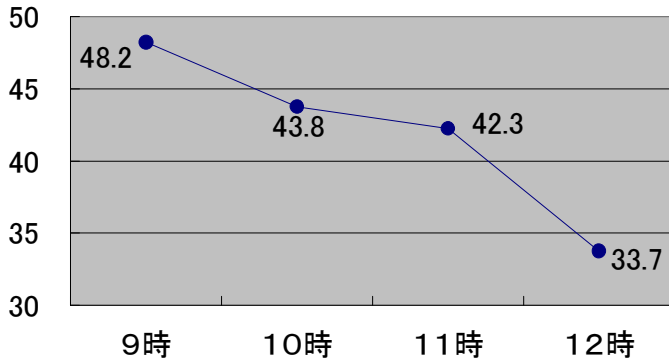


- 子どもの就寝時間は、テレビやビデオ等の視聴時間と大きな関連があるといえる。

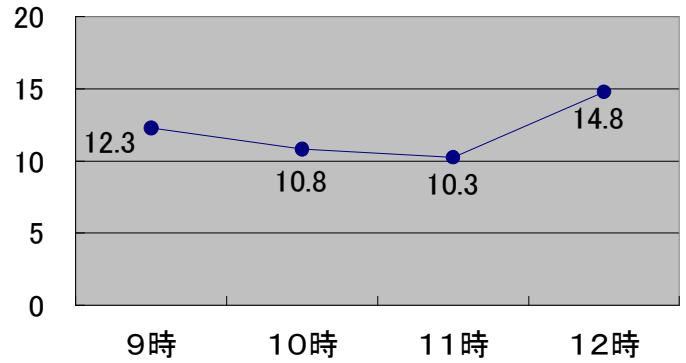
## 【中学生】

### ◇ 学校での様子や授業や勉強について

「とても楽しい」

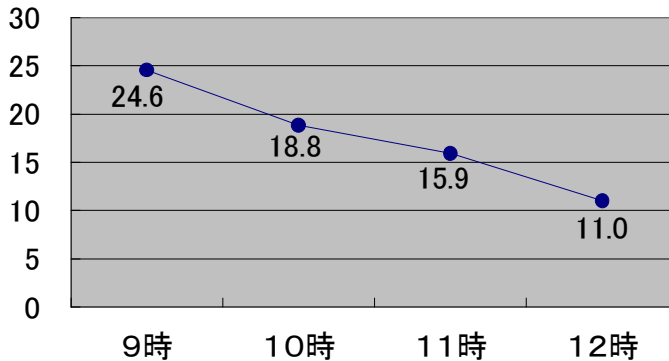


「あまり楽しくない」  
「まったく楽しくない」

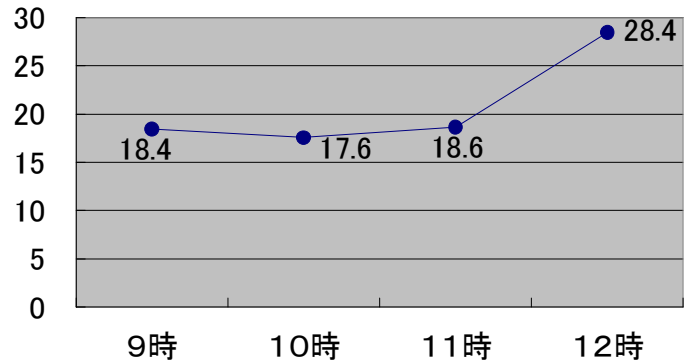


- 中学生は、小学校ほど顕著な差はないが、各項目において就寝時間の遅い子どもほど好ましくない傾向の割合が高いことは、小学校と同様である。

### ◇ 授業で「わかる」「できる」と感じているか 「とても感じている」

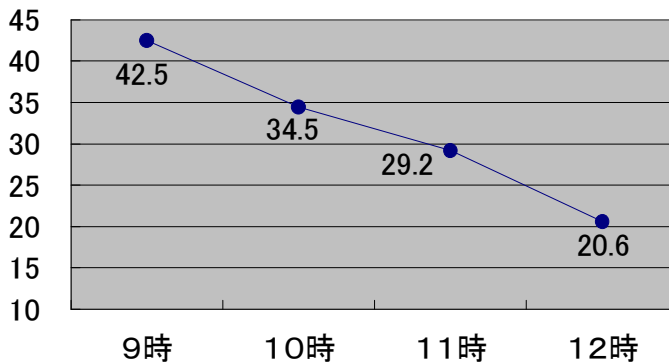


「あまり感じていない」

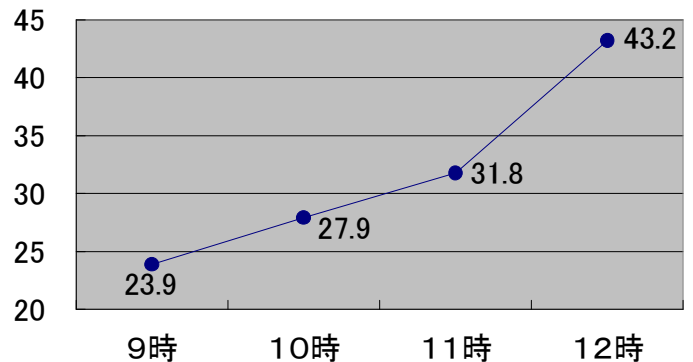


- 授業で「わかる」「できる」を感じている割合は、就寝時間が早いほど高い。

### ◇ 朝起きたときや夜寝る前などの家の人へのあいさつ 「必ずする」

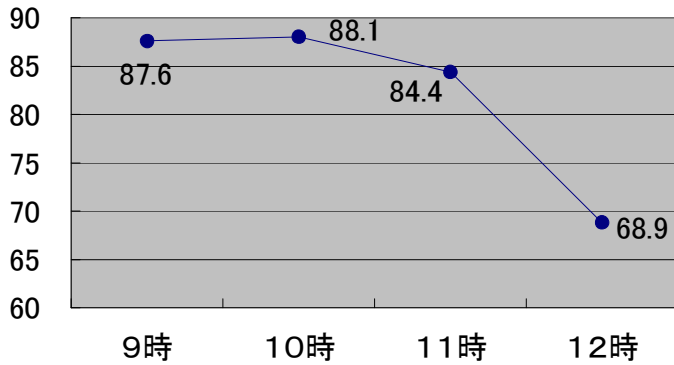


「あまりしない」「ほとんどしない」



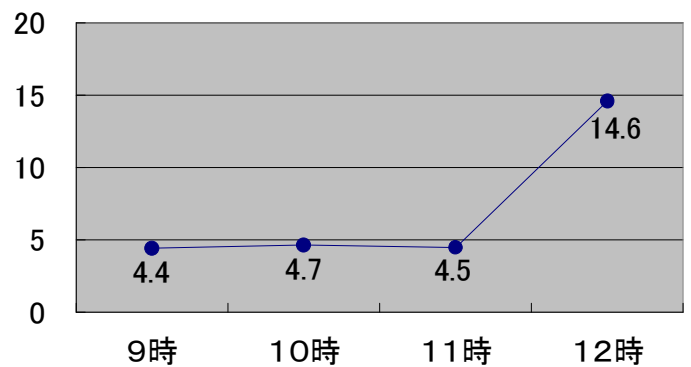
◇ 朝食の様子

「いつも食べる」



「食べる時と食べない時が半々」

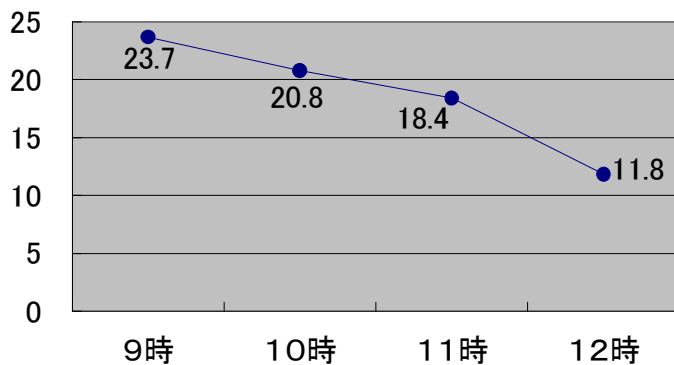
「ほとんど食べない」



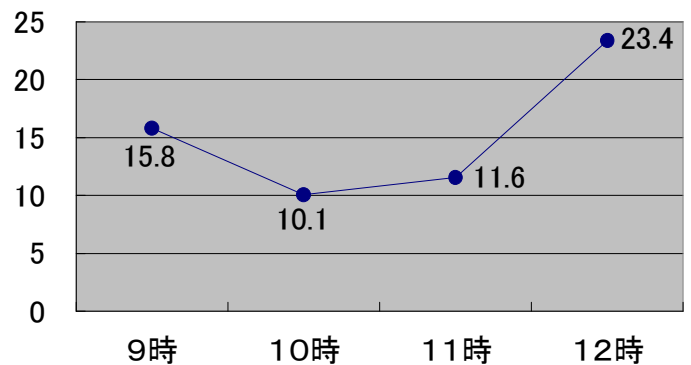
- 中学生は、朝食に関しては、9時から11時までの就寝時間では大きな差は見られないが、12時（12時より遅い）になると大きな影響が出ていることがわかる。

◇ 家庭学習のようす

「宿題がなくてもほとんど毎日する」



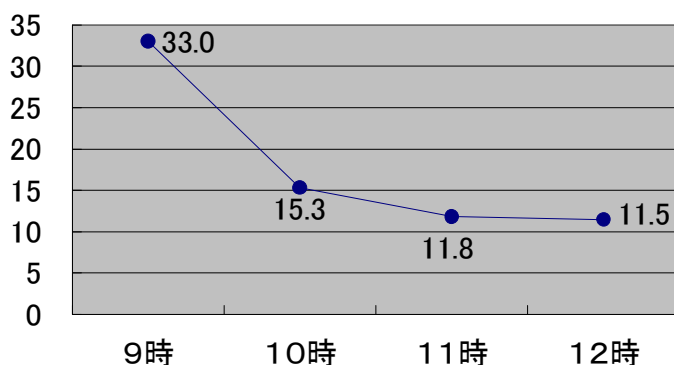
「宿題があってもしないことが多い」



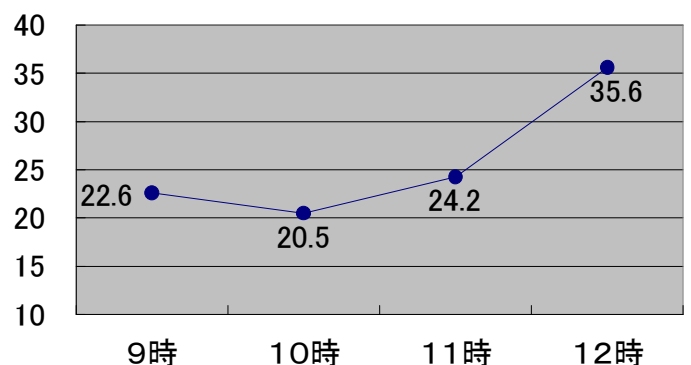
- 就寝時間が遅いほど、自主的な家庭学習の習慣が身に付いていない傾向がある。「宿題があってもしないことが多い」の割合からも、中学生は適切な就寝時間、睡眠時間が必要であることがわかる。

◇ 平日のテレビやビデオ、DVDなどの視聴時間

「ほとんど見ない」「1時間以内」



「3時間以上」



- テレビやビデオ等の視聴時間に関しては、「ほとんど見ない」「1時間以内」は、就寝時間が9時頃以外は大きな差はないが、3時間以上は就寝時間が12時頃の子どもになると高い割合となる。

### 〈参考〉睡眠時間と学力との関係

(平成16年度「基礎・基本定着状況調査報告書」広島県教育委員会)

※最上段は睡眠時間

	5時間より少ない	5時間以上6時間より少ない	6時間以上7時間より少ない	7時間以上8時間より少ない	8時間以上9時間より少ない	9時間以上10時間より少ない	10時間以上
国語	53.1	64.7	68.2	73.6	74.1	73.5	66.5
算数	56.7	69.1	72.3	77.8	77.8	77.1	69.9

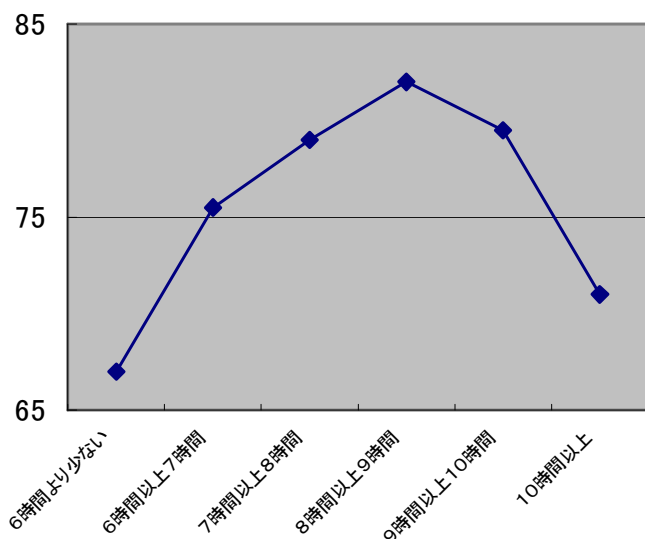
※小学校5年生における、通過率。通過率は、設問ごとの正答、準正答を回答した生徒の割合

- 広島県の小学校5年生対象の調査結果であるが、学力と適切な睡眠時間の関係が数値で実証されている。

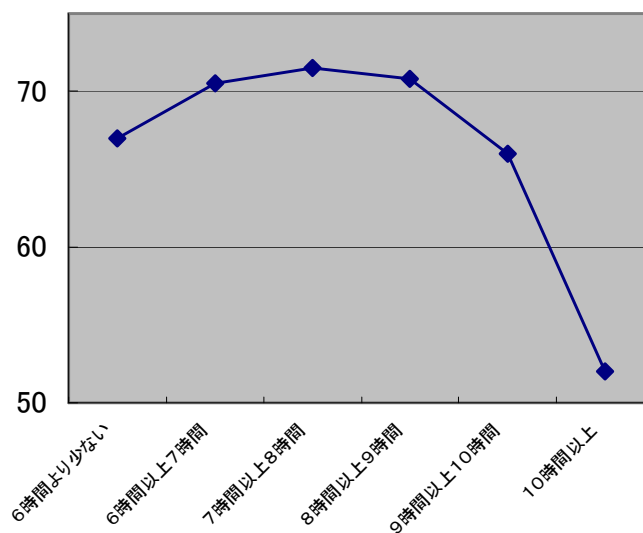
(平成16年度「全県学力調査報告書」新潟県教育委員会)

※縦軸は、全教科の正答率の平均

「小学校5年生」



「中学校1年生」



- 参考資料から、子どもの就寝時間（睡眠時間）が学校生活の充実や学力、家庭生活におけるあいさつや朝食の摂取状況などの基本的な生活習慣、家庭学習の定着、テレビ等の視聴時間と密接に関連しているといえる。また、小学生、中学生ともに就寝時間が遅くなるほど好ましくない傾向が増加する。
- 子どもの基本的な生活習慣の中でも、特に就寝時間は重要な事項であることを学校は客観的な数値や資料とともに保護者に伝え、親の意識啓発を図るとともに家庭生活における基本的な生活習慣の定着にむけて援助していくことが大切である。

- 中学生になると、親が子どもより早く寝ることも多くなり、「親が寝た後はわからない。」  
「子どもにまかせている。」という家庭も増加する実態があると思われる。しかし、夜型の生活の弊害が浮き彫りになりつつある現在、「子どもの自主性に任せる」だけではなく、親が子どもの家庭生活や基本的な生活習慣の定着について見直し、親が親としての責任を自覚する必要がある。
- 小学校、特に低学年の段階から適切な就寝時間による睡眠時間の確保ができるようにするために、親が自分の生活に子どもの生活を合わせるのではなく、子どものよりよい成長を考えた家庭生活について配慮していくことが重要である。

問 1 2 あなたの家庭学習のようすについて教えてください。

〈小学校〉

学年	性別	宿題がなくてもほとんど毎日する	宿題がなくてもときどきする	宿題があるときだけやる	宿題があってもしないことが多い
4年生	男子	210	288	145	66
	女子	268	289	102	39
	小計	478	577	247	105
		34.0%	41.0%	17.6%	7.5%
5年生	男子	197	287	171	48
	女子	249	306	103	32
	小計	446	593	274	80
		32.0%	42.6%	19.7%	5.7%
6年生	男子	190	320	159	64
	女子	255	275	100	26
	小計	445	595	259	90
		32.0%	42.8%	18.6%	6.5%
合計	男子	597	895	475	178
		27.8%	41.7%	22.1%	8.3%
	女子	772	870	305	97
		37.8%	42.6%	14.9%	4.7%
	合計	1,369	1,765	780	275
		32.7%	42.1%	18.6%	6.6%

- 小学生は、学年による差はあまり見られない。小学生の32.7%が、宿題がなくてもほとんど毎日家庭学習を実施している。その反面、18.6%が「宿題があるときだけやる。」6.6%が「宿題があってもしない。」と回答している。
- 特に小学校段階の家庭学習については、家庭での学習環境づくりと親の支援、賞賛が大きな意味を持つ。学校では、家庭学習の行い方を具体的に示すとともに、家庭における学習環境の大切さや家庭学習の具体例を提示するなどして、保護者との連携を図りなが

ら家庭学習を行う環境づくりを支援するとともに、教員は、個々の児童生徒の家庭学習の状況を見取り、それぞれに応じたアドバイスを行う必要があると考える。

### 〈中学校〉

学年	性別	宿題がなくてもほとんど毎日する	宿題がなくてもときどきする	宿題があるときだけやる	宿題があってもしないことが多い
1年生	男子	141	294	93	48
	女子	149	283	84	30
	小計	290	577	177	78
		25.8%	51.4%	15.8%	7.0%
2年生	男子	98	202	171	98
	女子	61	216	189	86
	小計	159	418	360	184
		14.2%	37.3%	32.1%	16.4%
3年生	男子	78	182	172	118
	女子	69	225	174	99
	小計	147	407	346	217
		13.2%	36.4%	31.0%	19.4%
合計	男子	317	678	436	264
		18.7%	40.0%	25.7%	15.6%
	女子	279	724	447	215
		16.8%	43.5%	26.8%	12.9%
合計	596	1,402	883	479	
	17.7%	41.7%	26.3%	14.3%	

- 全体では「宿題がなくてもほとんど毎日する」「宿題がなくてもときどきする」と自主的に家庭学習を行っているといえる生徒は59.4%である。
- 学年が上がるにつれ、家庭学習をしなくなる傾向が顕著に現れている。特に、中学2年生からこの傾向が強くなり、「宿題があるときだけやる」「宿題があってもしないことが多い」が、1年生と比較すると倍増する。
- 中学3年生では、「宿題があってもしない」が約2割となり、「宿題があるときだけやる」と合わせると、約半数の生徒が、自主的な家庭学習の習慣がないという状況がある。
- 「課題をやってこない」「提出期限を守らない」生徒については、その実情に応じて、学校では、時には厳しい指導をすることも必要であると考えられる。

### 〈参考〉中学生の通塾状況

問20 学習塾は、1週間に何日ですか。				
	なし	1日	2日	3日
中学1年	65.4%	11.9%	18.6%	3.2%
中学2年	52.0%	17.3%	26.9%	2.8%
中学3年	40.3%	18.8%	25.0%	13.8%

- 問20の通塾に関する調査では、中学3年生では約60%の生徒が学習塾に通っており、週に2日が一番多く25.0%、週に3日通っている生徒も13.8%いる。学習塾での学習時間も「家庭学習の時間」と考える必要性もあるが、学習塾には通うが、家庭での自主的な学習習慣がないという生徒も多いのではないかと考えられる。

〈参考〉本調査と「長岡っ子の家庭生活」（平成15年度：長岡市生徒指導研究会）の比較

平日の家庭学習の様子はどうですか		
	宿題がなくてもほとんど毎日する	宿題がなくてもときどきする
中学3年	21.6%	40.6%

- 「長岡っ子の家庭生活」（平成15年度：市生研）との比較では、中学校3年生で大きな差が見られる。平成15年度調査では、「宿題がなくてもほとんどする」「宿題がなくても時々する」は62.2%であるが、今回の調査では、49.6%と大きく低下している。

問13 あなたは平日（土曜日や日曜日をのぞきます。）どのくらい家庭学習をしますか。（宿題をやっている時間は入れますが、塾の時間は入れません。）

	ほとんどしない	30分より少ない	30分～1時間くらい	1時間～2時間くらい	2時間～3時間くらい	3時間以上
小学4年	5.8%	24.5%	56.5%	10.4%	1.6%	1.3%
小学5年	4.9%	15.9%	62.9%	13.6%	1.9%	0.9%
小学6年	3.2%	11.7%	58.7%	23.2%	2.4%	0.6%
小学全体	4.7%	17.4%	59.4%	15.7%	2.0%	0.9%
中学1年	6.0%	10.5%	42.0%	32.8%	6.6%	2.0%
中学2年	22.3%	16.2%	40.9%	17.7%	2.0%	1.0%
中学3年	24.6%	16.5%	33.2%	21.0%	3.8%	0.9%
中学全体	17.6%	14.4%	38.7%	23.9%	4.2%	1.3%

- 小学校は、家庭学習時間の目安として「学年×10分」を指導している学校は多い。その目安から考えると、ある程度の家庭学習の時間が確保されているといえる。
- 中学校は、「ほとんどしない」「30分より少ない」は、学年が上がるごとに増加し、中学校3年生では「ほとんどしない」24.6%、「30分より少ない」16.5%で、合計すると41.1%となる。学校でも、生徒の日頃の地道な努力を見取り評価したり、家庭生活の状況のある程度把握し、教育相談、進路相談、学級指導等を活用して家庭学習に関する指導をしていくことが望まれる。



- 中学生3年生の家庭学習の意識や学習時間の低下について、今回のアンケートは、調査実施時期が6月から7月であり、部活動の活発な時期であることが原因であるという指摘もあるが、就寝時間、テレビ等の視聴時間の数値から見ても、部活動が大きな要因とは考えられないのではないか。

問14 あなたは、平日にテレビやビデオ（DVD）などをどのくらい見ますか。

	ほとんど見ない	1時間より少ない	1時間～1時間30分	1時間30分～2時間	2時間～2時間30分	2時間30分～3時間	3時間以上
小学4年	14.5%	17.2%	25.4%	14.5%	7.1%	7.0%	14.3%
小学5年	7.0%	14.2%	21.0%	15.6%	12.0%	10.7%	19.5%
小学6年	3.2%	7.3%	16.3%	18.3%	13.8%	15.6%	25.5%
小学全体	8.2%	12.9%	20.9%	16.1%	11.0%	11.1%	19.7%
中学1年	6.4%	9.7%	17.7%	17.3%	13.4%	12.8%	22.5%
中学2年	5.6%	6.8%	14.3%	16.4%	14.0%	14.2%	28.8%
中学3年	5.3%	7.2%	14.8%	20.2%	15.3%	12.0%	25.3%
中学全体	5.8%	7.9%	15.6%	18.0%	14.2%	13.0%	25.5%

- 小学校6年生から中学校3年生までで、テレビやビデオ、DVD等の視聴時間に大きな変化はない。小学校6年生以上になると、4人に一人は、平日にテレビやDVDなどを3時間以上見ている。
- 小学校4年生、5年生は「1時間から1時間30分」の割合が一番多いが、その他の学年は、「3時間以上」の割合が一番多くなる。

〈参考〉保護者の子どものテレビやゲーム時間に関する意識

問5⑩ テレビやゲームの時間を決めて、守らせるようにしている		
	かなり心がけている	ある程度心がけている
小学校	24.0%	56.3%
中学校	15.9%	58.3%

- 保護者意識調査では、小学校80.3%、中学校でも74.2%の保護者がある程度テレビやゲームの時間を決めて守らせるよう心がけていると回答している。「テレビやゲームの時間を決めて、守らせるようにしている」ことを心がけているという保護者の意識と子どもの実際の生活には若干のずれがある。
- 小学生は、学校から帰ってから、保護者が帰宅する前の時間、中学生は就寝までの時間がテレビ等に多く費やされているのではないかと予想できる。
- 小学生、中学生ともに、自分の部屋（兄弟姉妹と一緒にの部屋を含む）にテレビを所持している子どもの方が、自室にテレビのない子どもより、平日の視聴時間が2時30分～3時間以上という割合が高い。

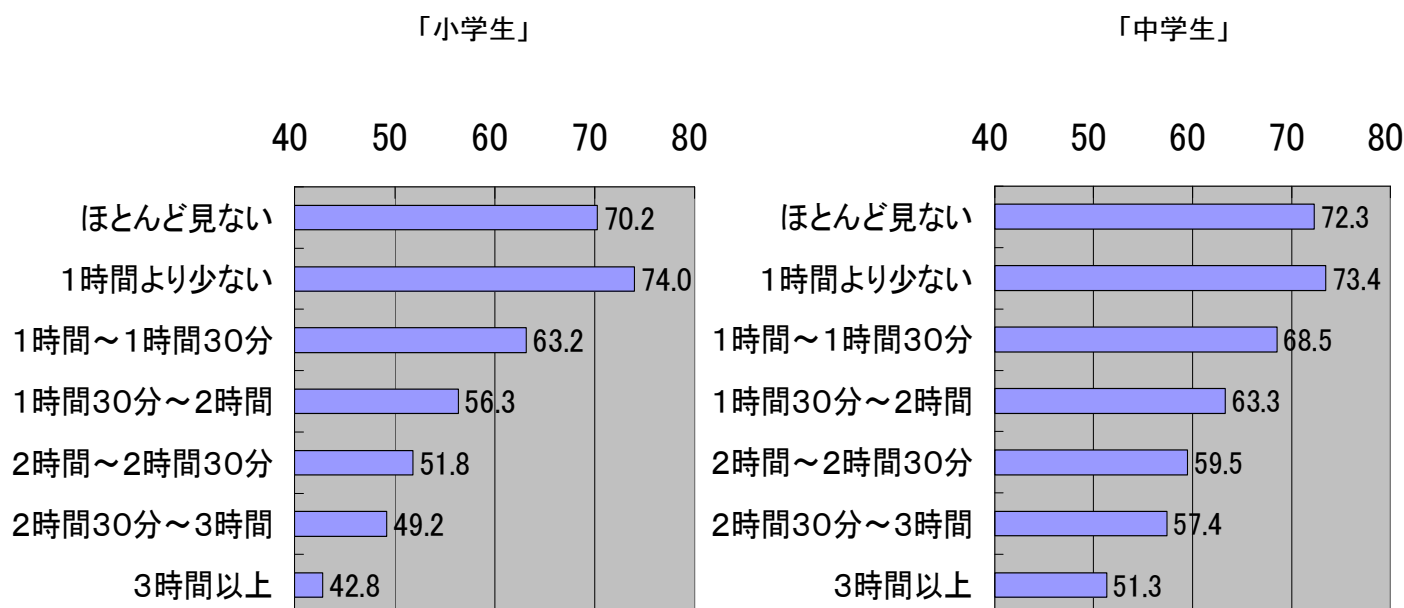
問15 あなたは、平日にテレビゲーム（携帯用ゲーム、パソコンのゲームなどすべてを含む）をどのくらいしますか。

	ほとんどしない(もってない)	1時間より少ない	1時間～1時間30分	1時間30分～2時間	2時間～2時間30分	2時間30分～3時間	3時間以上
小学4年	20.7%	40.3%	21.4%	7.9%	2.7%	2.3%	4.8%
小学5年	21.4%	37.8%	20.0%	10.8%	3.4%	2.8%	3.8%
小学6年	17.1%	35.1%	24.5%	11.1%	4.0%	4.0%	4.2%
小学全体	19.7%	37.7%	21.9%	9.9%	3.4%	3.0%	4.3%
中学1年	32.2%	34.3%	16.3%	7.2%	2.9%	2.5%	4.6%
中学2年	31.0%	27.1%	17.1%	9.2%	5.1%	3.9%	6.5%
中学3年	34.8%	24.5%	15.1%	9.7%	5.2%	3.8%	7.0%
中学全体	32.6%	28.7%	16.2%	8.7%	4.4%	3.4%	6.0%

- 小学生は「1時間より少ない」、中学生は「ほとんどしない（もってない）」の割合が一番多い。
- 中学生では「ほとんどしない」「もっていない」がどの学年も30%以上である。
- 男女の比較では、小学校、中学校ともに男子の方がゲームをする時間は長い。1日2時間以上ゲームをする割合も、男子は小学生15.7%、中学生18.5%である。女子は、それぞれ5.4%、8.9%である。

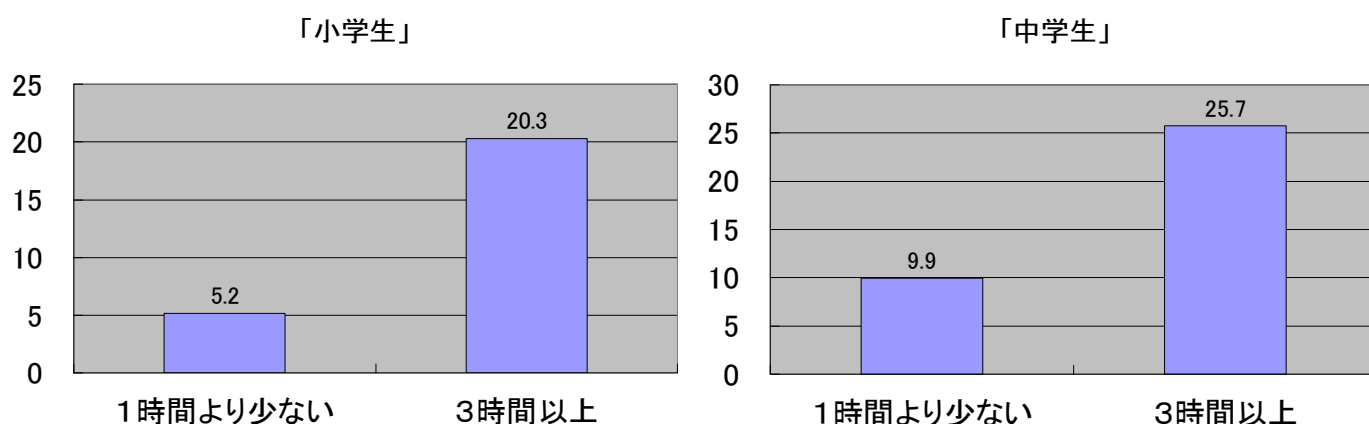
〈参考〉本調査からわかる、テレビ等の視聴時間とテレビゲーム（携帯用ゲーム、パソコンのゲーム）の時間の関係  
 （テレビ等の視聴時間の違いによるゲーム等に関する項目の割合）

- ◇ 平日のテレビ等の視聴時間別に比較した、平日テレビゲーム等の時間が1時間以内（もっていないを含む）の子どもの割合



- テレビ（ビデオやDVD）の視聴時間の短い子どもは、平日のテレビゲーム等の時間が1時間以内（持っていないも含む）の割合が高い傾向がある。

◇ 平日のテレビ等の視聴時間が「1時間より少ない」と「3時間以上」の子どものテレビゲーム等を2時間以上する割合



- 平日のテレビの視聴時間が1時間より少ない子どもと3時間以上の子どもの比較では、「平日にテレビゲーム等を2時間以上する」割合は、テレビを3時間以上見る子どもの方が、2～3倍も高い。
- テレビゲームの悪い影響等は科学的な面からも指摘されている。また、バーチャルな体験だけに没頭する子どもの精神的、肉体的な成長の遅れも指摘されており、家庭でなんらかのルールを決め、約束を守らせ子どもに遊ばせることが大切である。
- テレビを長時間見る子どもはテレビゲーム等も長時間やる傾向にあることが数値にも表れており、テレビゲーム（携帯用ゲームやパソコンのゲーム）だけを考えるのではなく、テレビやビデオ、DVD等のメディアと関連付けて考え、子どもに指導する必要がある。

問16 あなたは、1週間にどのくらい本を読みますか。（朝読書や授業での読書、マンガや雑誌を読んだ時間は入れずに教えてください。）

	ほとんど読まない	30分より少ない	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間以上
小学4年	26.9%	27.6%	26.5%	8.7%	3.1%	7.2%
小学5年	31.5%	26.4%	23.4%	8.9%	4.7%	5.1%
小学6年	29.4%	23.2%	25.4%	11.6%	4.8%	5.6%
小学全体	29.2%	25.7%	25.1%	9.7%	4.2%	6.0%
中学1年	40.1%	21.4%	19.0%	10.4%	3.3%	5.8%
中学2年	45.4%	19.0%	15.5%	8.0%	2.8%	9.4%
中学3年	45.8%	18.0%	15.0%	9.8%	3.6%	7.9%
中学全体	43.8%	19.5%	16.5%	9.4%	3.2%	7.7%

- 中学校では、どの学年も「ほとんど読まない」が40%を超える。小学校は「ほとんど読まない」「30分より少ない」を合計するとどの学年も50%を超える。
- 子どもの読書離れ、本離れの傾向が指摘されているが、数値は1週間の読書時間としては、明らかに読書離れ、本離れの傾向があることを示している。
- 朝読書に取り組んでいる学校も多く、「読書は朝読書で」が定着している子どももいると考えられるが、平日の子どもの生活時間を考えたとき、テレビやビデオ、ゲーム等の時間などを除くと、読書に充てられる時間はほとんどないのではないかと推察される。

**問17 習いごと（ピアノ、書道、そろばんなど）やスポーツ活動（スポーツ少年団、野球、サッカー、水泳、剣道、ダンスなど）と学習塾すべてを併せて、1週間に何日かよっていますか。**

	0日	1日	2日	3日	4日	5日以上
小学4年	18.9%	17.8%	18.9%	17.7%	13.1%	13.6%
小学5年	16.9%	16.8%	19.6%	17.6%	12.6%	16.5%
小学6年	19.9%	15.3%	17.0%	17.6%	12.4%	17.7%
小学全体	18.6%	16.6%	18.5%	17.7%	12.7%	15.9%
中学1年	38.8%	17.9%	17.9%	10.9%	5.7%	8.8%
中学2年	36.6%	19.2%	24.0%	8.3%	3.4%	8.5%
中学3年	30.7%	19.0%	23.0%	15.8%	4.7%	6.9%
中学全体	35.4%	18.7%	21.6%	11.7%	4.6%	8.1%

- 小学生、中学生ともに学年の違いによる大きな差は見られない。小学生の習いごとの日数は、0日（習いごとをしていない）と5日以上まで、割合としてはほぼ均等であり、個々の児童によって様々であることがわかる。4日と5日以上という児童は、全体で28.6%である。5日以上という児童は、男子20.9%、女子10.7%であり、ほぼ毎日のように習いごとに通う子どももいる。
- 中学生は、0日（習いごとをしていない）が一番多く、35.4%である。学年が上がると減少する傾向は、通塾の割合が上がるためであると考えられる。小学生までやっていた習いごとを中学生でやめるといった傾向が数値にも現れている。

**問18 習いごと（ピアノ、書道、そろばんなど）は、1週間に何日ですか。**

	0日	1日	2日	3日	4日	5日以上
小学4年	51.5%	24.1%	12.1%	7.8%	2.4%	2.1%
小学5年	48.8%	27.5%	12.5%	7.1%	3.1%	1.0%
小学6年	55.6%	21.9%	12.1%	6.2%	2.4%	1.8%
小学全体	52.0%	24.5%	12.2%	7.0%	2.6%	1.6%
中学1年	67.9%	19.7%	7.2%	4.1%	0.9%	0.2%
中学2年	74.5%	18.4%	4.3%	2.0%	0.4%	0.5%
中学3年	79.1%	14.8%	3.7%	1.3%	0.7%	0.5%
中学全体	73.8%	17.7%	5.1%	2.5%	0.7%	0.4%

- 全体では、0日が一番多い。学年があがると0日が増加していく傾向があり、学習塾以外の習いごとに通う子どもが減少していくことがわかる。
- 男女の数値は大きな違いがあり、小学生で男子の0日は、64.9%であるのに対し、女子は38.5%、中学生では男子の0日は、85.0%であるのに対し、女子は62.5%であり、女子の方が習いごとに通う割合はかなり多い。

**問19 スポーツ活動（スポーツ少年団、野球、サッカー、水泳、剣道、ダンスなど）は、1週間に何日ですか。**

	0日	1日	2日	3日	4日	5日以上
小学4年	36.6%	23.5%	16.1%	10.5%	7.3%	5.9%
小学5年	36.1%	21.2%	17.7%	9.8%	7.3%	7.8%
小学6年	40.9%	14.8%	15.7%	12.2%	7.9%	8.5%
男子	28.2%	17.2%	19.7%	13.8%	10.1%	11.0%
女子	48.2%	22.6%	13.1%	7.7%	4.8%	3.6%
小学全体	37.9%	19.8%	16.5%	10.8%	7.5%	7.4%
中学1年	72.8%	9.0%	5.0%	2.1%	2.5%	8.6%
中学2年	75.7%	5.5%	4.6%	2.2%	1.8%	10.2%
中学3年	81.2%	5.8%	4.5%	1.5%	1.3%	5.6%
中学全体	76.5%	6.8%	4.7%	1.9%	1.9%	8.2%

- 1週間に0日という割合から判断すると、スポーツ活動への参加は圧倒的に小学生が高い。これは、中学校では運動部活動入部者が多いが、小学校は放課後の運動部活動はほとんど実施されておらず、地域のスポーツ少年団や社会体育関係がスポーツ活動の受け皿になっている現状によるものと考えられる。
- 小学校の男女の比較では、スポーツ活動への参加は、圧倒的に男子が多い。中学生の男女間には小学生ほどの差異はないが、同様の傾向がある。
- 小学生は、学校の体育授業以外まったくスポーツ活動をしない児童と1週間に3日以上スポーツ活動を実施している児童（男子34.9%、女子16.1%）との間に、スポーツ活動への参加等の二極化の傾向が現れつつあるといえる。

**問20 学習塾は、1週間に何日ですか。**

	0日	1日	2日	3日	4日	5日以上
小学4年	74.7%	9.3%	10.6%	3.6%	0.7%	1.0%
小学5年	71.6%	11.6%	11.9%	3.5%	0.8%	0.7%
小学6年	74.2%	11.0%	11.5%	1.9%	0.8%	0.5%
小学全体	73.5%	10.6%	11.3%	3.0%	0.8%	0.7%
中学1年	65.4%	11.9%	18.6%	3.2%	0.6%	0.4%
中学2年	52.0%	17.3%	26.9%	2.8%	0.3%	0.7%
中学3年	40.3%	18.8%	25.0%	13.8%	1.4%	0.6%
中学全体	52.6%	16.0%	23.5%	6.6%	0.7%	0.6%

- 小学校は、26.5%の児童が学習塾に通っている。学年ごとの大きな差異はなく、学習塾に通っている児童のほとんどが、1週間に1日または2日である。
- 中学生は、1年生は約35%、2年生は約48%、3年生は約60%の生徒が学習塾に通っている。2、3年生は1週間に2日という生徒が一番多く、4人に一人は1週間に2日、学習塾に通っている。

## 問21 あなたは自分の部屋や勉強部屋がありますか。

学年	性別	自分専用の部屋がある	兄弟姉妹といっしょ	ない
小学生	男子	945	865	340
		44.0%	40.2%	15.8%
	女子	1,043	776	231
		50.9%	37.9%	11.3%
	合計	1,988	1,641	571
		47.3%	39.1%	13.6%
中学生	男子	1,274	336	101
		74.5%	19.6%	5.9%
	女子	1,215	368	82
		73.0%	22.1%	4.9%
	合計	2,489	704	183
		73.7%	20.9%	5.4%

- 小学生では、「自分専用の部屋がある」という子どもは、47.3%、「兄弟姉妹といっしょ」という子どもは、39.1%である。学年間で10ポイント以上の大きな差はないが、学年が上がるにつれ、「兄弟姉妹といっしょ」が減少し、「自分専用の部屋がある」が増加する。
- 中学生は、「自分専用の部屋がある」は、73.7%、「兄弟姉妹といっしょ」は、20.9%である。小学生と同じ傾向があり、中学1年生は、「自分専用の部屋がある」は、66.7%であるが、中学2年生では、76.2%、中学校3年生では78.4%となる。
- 「家庭学習の様子」「夜の就寝時間」等の回答においても、中学1年から中学2年で大きな変化がある。生徒の発達段階による部分もあるが、自分個人の部屋を持ち、比較的家族に干渉されない時間と空間ができる家庭での生活環境の変化が、生徒の学習をはじめとする家庭生活の様子にある程度の影響を与えていると考えられる。

問22 あなたの部屋（兄弟姉妹といっしょ）には、テレビはありますか。

〈小学校〉

学年	性別	ある	ない
4年生	男子	209	414
	女子	147	486
	小計	356 28.3%	900 71.7%
5年生	男子	232	386
	女子	167	461
	小計	399 32.0%	847 68.0%
6年生	男子	259	395
	女子	176	435
	小計	435 34.4%	830 65.6%
合計	男子	700	1,195
		36.9%	63.1%
	女子	490	1,382
		26.2%	73.8%
合計	1,190 31.6%	2,577 68.4%	

〈中学校〉

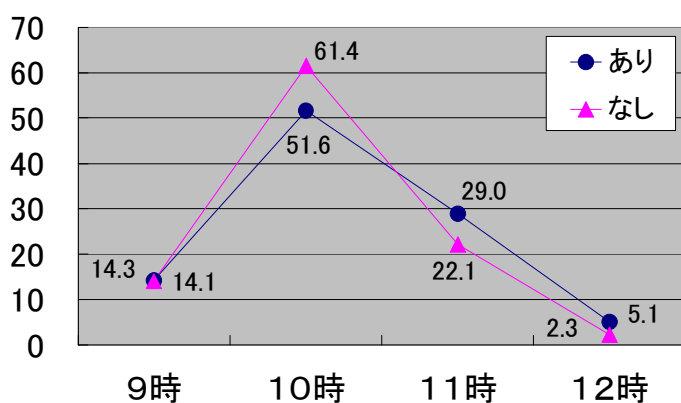
学年	性別	ある	ない
1年生	男子	245	286
	女子	147	367
	小計	392 37.5%	653 62.5%
2年生	男子	260	291
	女子	154	378
	小計	414 38.2%	669 61.8%
3年生	男子	296	240
	女子	176	375
	小計	472 43.4%	615 56.6%
合計	男子	801	817
		49.5%	50.5%
	女子	477	1,120
		29.9%	70.1%
合計	1,278 39.8%	1,937 60.2%	

- 自分専用の部屋、あるいは兄弟姉妹と一緒にの部屋を持っている小学生のうち、31.6%がその部屋にテレビがあると答えている。小学4年生では、28.3%であるが、学年が上がるごとに所持率も上昇する。
- 中学生は、自分の部屋、あるいは兄弟姉妹と一緒にの部屋を持っている生徒の39.8%がテレビを持っている。中学3年生では43.4%となり、特に男子の所持率は高く、中学3年生男子は、55.2%と半数を超える生徒が自分の部屋にテレビを持っている。

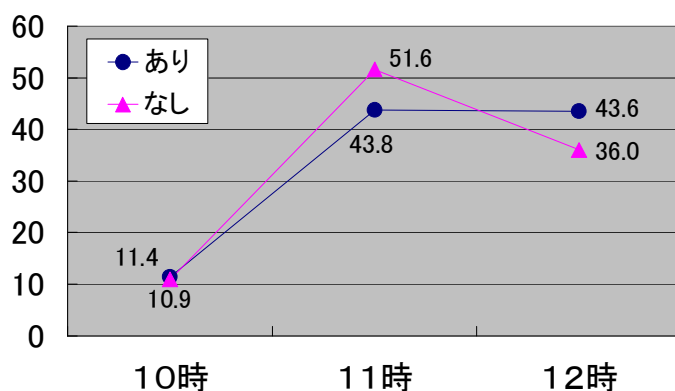
### 〈参考〉自分の部屋（兄弟姉妹と一緒にの部屋）にテレビがある子どもとない子どもの生活実態の比較

#### ◇ 自分の部屋のテレビの有無と就寝時間の関係

「小学校6年生」



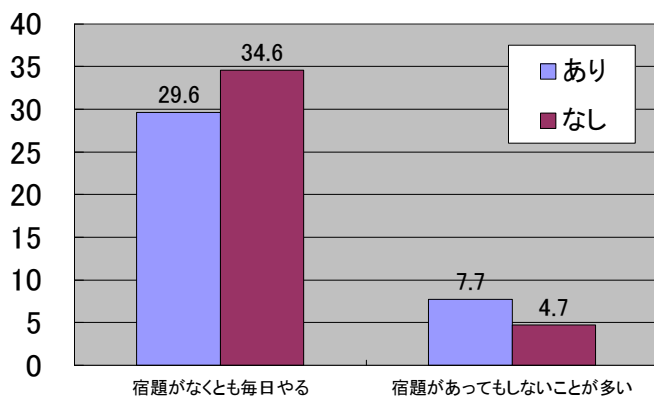
「中学校3年生」



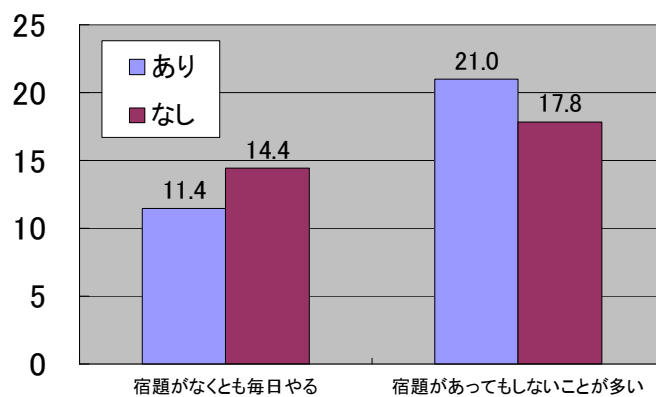
- 大きな差はないが、自分の部屋（兄弟姉妹と一緒にの部屋）にテレビがある子どもの方が、就寝時間が遅い割合が若干高い傾向にある。

#### ◇ 自分の部屋のテレビの有無と家庭学習の関係

「小学校6年生」



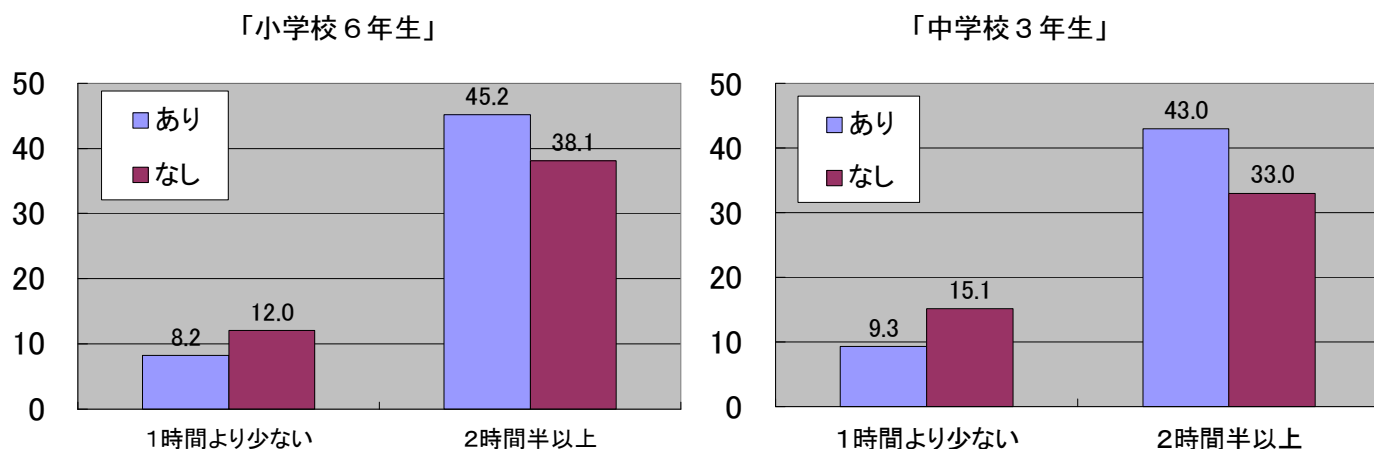
「中学校3年生」



- 自分の部屋（兄弟姉妹と一緒にの部屋）にテレビがないという子どもの方が、自主的な家庭学習が定着している割合が若干高い傾向にある。



◇ 自分の部屋のテレビの有無とテレビやビデオ等の視聴時間の関係



- 子どもの部屋にテレビを置くことの是非については、多様な考え方があある。子どもの部屋にテレビ等を置くことの影響や利用方法について親子で話し合い、ルールを決めることも大切である、また、小学校低、中学年の段階で、子どもの部屋にテレビ等を置くことの影響について、親も学校も考える必要がある。

〈参考〉保護者意識調査

保護者意識調査 問10 子どもの部屋にテレビ(ビデオ)が必要だと思いますか		
	あまり必要でないと思う	必要ないと思う
小学生保護者	32.8%	52.2%
中学生保護者	33.4%	44.5%

- 保護者意識調査では、小学生は、85.0%、中学生は77.9%の保護者が「必要ないと思う」「あまり必要ないと思う」と回答しているが、保護者の意識と実際の児童生徒の状況では、ずれがある。

〈参考〉教員意識調査

教員意識調査 問8 子どもの部屋にテレビ(ビデオ)が必要だと思いますか		
	あまり必要ないと思う	必要ないと思う
小学校教員	16.5%	80.5%
中学校教員	26.2%	67.3%

- 教員意識調査では、小学校は97.0%、中学校は93.5%の教員が、子どもの部屋にテレビは、「必要ない」「あまり必要ない」と考えている。
- 教員の意識は、学校における様々な児童生徒の状況から、自室にテレビを所有していることが、夜型の生活や生活習慣の乱れにつながったり、子どもが家庭学習を自主的にやれないことに関係しているということを感じている表れであると考えられる。

問23 あなたは自分専用の携帯電話を持っていますか。

〈小学校〉

学年	性別	もっている	もっていない
4年生	男子	54	642
	女子	48	648
	小計	102	1,290
		7.3%	92.7%
5年生	男子	31	659
	女子	49	631
	小計	80	1,290
		5.8%	94.2%
6年生	男子	48	655
	女子	51	594
	小計	99	1,249
		7.3%	92.7%
合計	男子	133	1,956
		6.4%	93.6%
	女子	148	1,873
		7.3%	92.7%
合計	281	3,829	
		6.8%	93.2%

〈中学生〉

学年	性別	もっている	もっていない
1年生	男子	53	508
	女子	95	450
	小計	148	958
		13.4%	86.6%
2年生	男子	102	464
	女子	173	376
	小計	275	840
		24.7%	75.3%
3年生	男子	161	387
	女子	247	317
	小計	408	704
		36.7%	63.3%
合計	男子	316	1,359
		18.9%	81.1%
	女子	515	1,143
		31.1%	68.9%
合計	831	2,502	
		24.9%	75.1%

- 小学生の所持率は、約7%程度である。中学校になると所持率は徐々に上がり、中学2年生は24.7%、中学3年生では36.7%となる。
- 中学校では、特に女子の所持率が高く、中学3年生女子は43.8%の生徒が自分専用の携帯電話を持っている。非常時の連絡用や安全確保、家族との連絡用という用途もあるが、女子の場合、友だち同士のメール交換といった点での使用頻度が高く、そのために女子の所持率が高いと考えられる。

〈参考〉子ども（小学校～中学生）の携帯電話の必要性について

子ども(小学生～中学生)に携帯電話は必要だと思いますか		
	あまり必要ないと思う	必要ないと思う
保護者全体	34.0%	43.2%
教員全体	25.8%	65.8%

- 携帯電話については、利便性や安全上の必要性などもあり、児童生徒が所有することについての是非については、様々な意見がある。しかし、特に中学生では携帯電話を介した問題行動等が増加していることが、教員の「必要ない」「あまり必要ない」を合計した91.6%という意識につながっていると思われる。
- 携帯電話の購入については、現在の中学生の生活に必要なものなのかを親子で検討するとともに、購入後の使用方法についても保護者が責任を持ち、適切な使用をさせていく必要がある。併せて、危険なサイト等へのアクセス制限等については、購入時に保護者が責任を持って行うことが必要である。

問24 家の人の手伝いをしますか。

〈小学校〉

学年	性別	とてもよくする	少しはする	あまりしない	ほとんどしない
4年生	男子	163	348	129	67
	女子	199	372	79	51
	小計	362	720	208	118
		25.7%	51.1%	14.8%	8.4%
5年生	男子	135	371	128	68
	女子	169	403	91	25
	小計	304	774	219	93
		21.9%	55.7%	15.8%	6.7%
6年生	男子	112	411	142	70
	女子	135	396	96	29
	小計	247	807	238	99
		17.8%	58.0%	17.1%	7.1%
合計	男子	410	1,130	399	205
		19.1%	52.7%	18.6%	9.6%
	女子	503	1,171	266	105
		24.6%	57.3%	13.0%	5.1%
合計	913	2,301	665	310	
		21.8%	54.9%	15.9%	7.4%

- 小学生は「とてもよくする」は21.8%、「少しはする」は54.9%である。
- 学年の比較では、小学校4年生は「とてもよくする」は25.7%であるが、6年生では17.8%に減少する。

### 〈中学校〉

学年	性別	とてもよくする	少しはする	あまりしない	ほとんどしない
1年生	男子	78	270	139	95
	女子	78	287	135	48
	小計	156	557	274	143
		13.8%	49.3%	24.2%	12.7%
2年生	男子	57	261	142	116
	女子	74	277	117	85
	小計	131	538	259	201
		11.6%	47.7%	22.9%	17.8%
3年生	男子	52	272	137	90
	女子	83	264	138	82
	小計	135	536	275	172
		12.1%	47.9%	24.6%	15.4%
合計	男子	187	803	418	301
		10.9%	47.0%	24.5%	17.6%
	女子	235	828	390	215
		14.1%	49.6%	23.4%	12.9%
合計	422	1,631	808	516	
		12.5%	48.3%	23.9%	15.3%

- 中学生は、全体で「とてもよくする」12.5%、「少しはする」48.3%である。学年ごとの大きな差異はない。
- 小学生と比較すると、「あまりしない」「ほとんどしない」が、約16%増加する。中学生になると、部活動や通塾などで小学生の時よりも時間的に余裕がなくなることが原因の一つであると思われる。また、近年は、親が子どもに遠慮して、家のことをさせなくなっている風潮があるのではないかといったことも理由として考えられる。

問24 自分がかならずする手伝い（決められた仕事）がありますか。

〈小学校〉

学年	性別	ある	ない
4年生	男子	328	366
	女子	350	335
	小計	678 49.2%	701 50.8%
5年生	男子	322	370
	女子	346	330
	小計	668 48.8%	700 51.2%
6年生	男子	312	417
	女子	313	335
	小計	625 45.4%	752 54.6%
合計	男子	962	1,153
		45.5%	54.5%
	女子	1,009	1,000
		50.2%	49.8%
合計	1,971 47.8%	2,153 52.2%	

〈中学校〉

学年	性別	ある	ない
1年生	男子	198	373
	女子	188	356
	小計	386 34.6%	729 65.4%
2年生	男子	184	384
	女子	181	366
	小計	365 32.7%	750 67.3%
3年生	男子	177	372
	女子	185	382
	小計	362 32.4%	754 67.6%
合計	男子	559	1,129
		33.1%	66.9%
	女子	554	1,104
		33.4%	66.6%
合計	1,113 33.3%	2,233 66.7%	

- 小学生で、自分がかんならずする手伝い（決められた仕事）が「ある」と答えた児童は、47.8%であり、約半数の児童は、特に決められた手伝いや家庭の仕事（役割等）がない。
- 中学生は、「ある」と答えた生徒は33.3%であり、約2/3の生徒は、特に決められた手伝いや家庭の仕事（役割等）を持っていない。

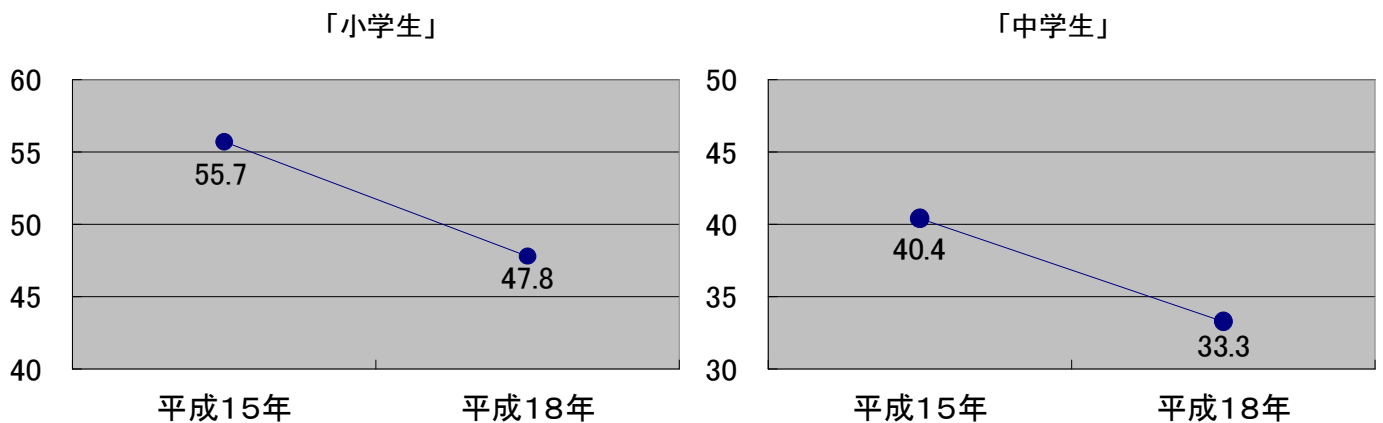
〈参考〉 保護者意識調査

問5⑧ 子どもの家事分担を決め、家の仕事をやらせている		
	かなり心がけている	ある程度心がけている
保護者全体	12.1%	44.5%

- 小学校、中学校ともに学年間での大きな差異はないが、小学校から中学校への段階で、約10%の生徒が家庭の決められた仕事や役割がなくなる。ある程度、保護者が意識しないといけない部分であり、家族の一員としてのなんらかの仕事や役割分担を持たせ、家族としての責任を果たさせることが、子どものよりよい成長に重要なことであることをもっと親自身が認識して、子どもにさせるように心がける必要がある。

〈参考〉 本調査と平成15年度「長岡っ子の家庭生活」との比較

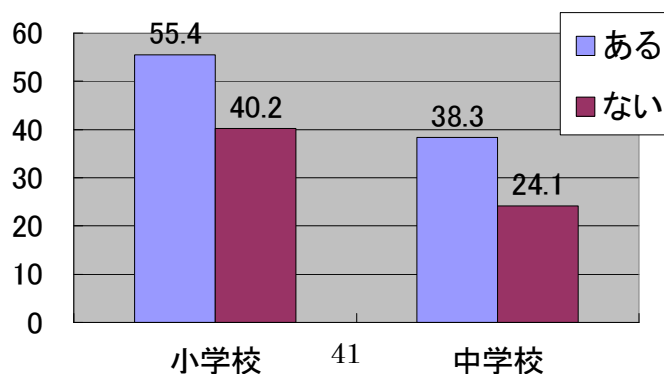
- ◇ 家庭で必ずする手伝いや仕事について「ある」と答えた子どもの割合



- 小学生、中学生ともに平成15年度と比較して、約7ポイント減少している。

〈参考〉 決められた仕事や手伝いの有無と朝や寝る前の家の人へのあいさつとの関係

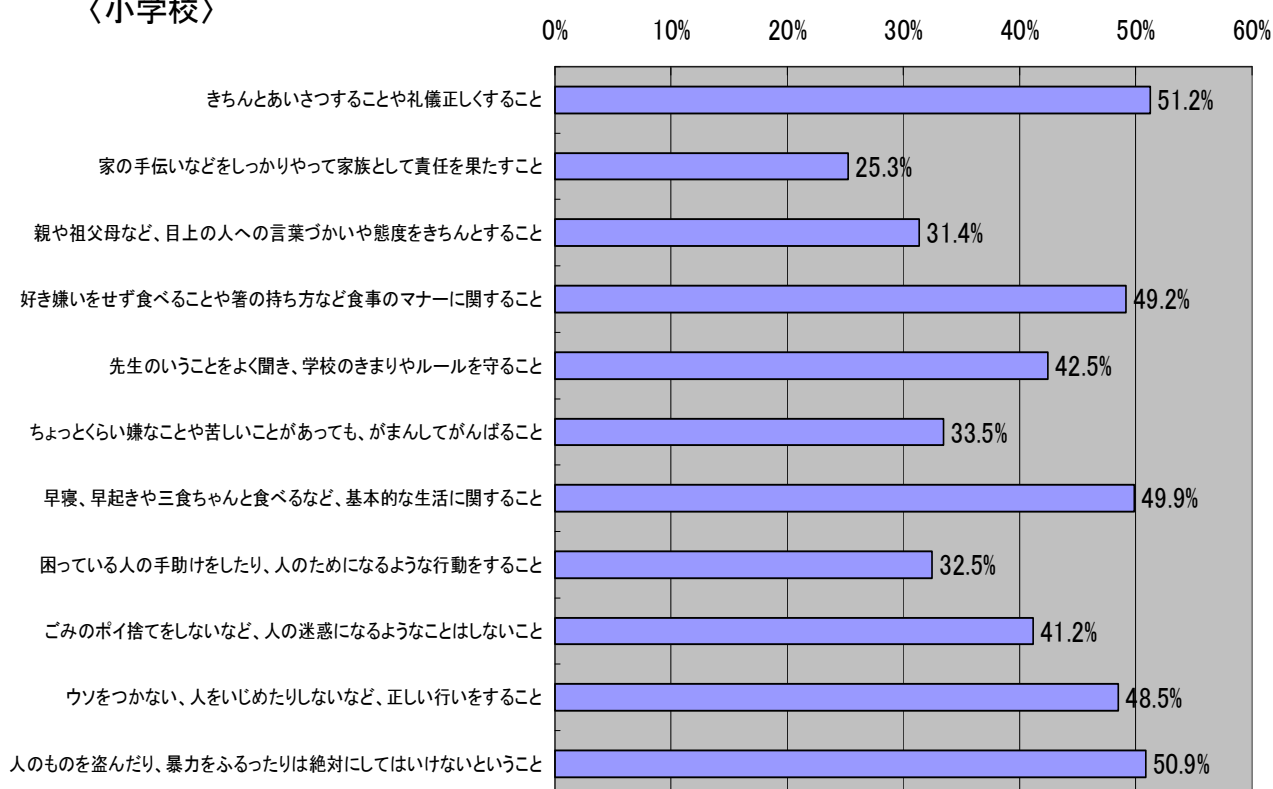
- ◇ 決められた手伝いの有無と家の人へのあいさつを「必ずする」子どもの割合の比較



- 小学校、中学校ともに、家庭で決められた仕事や手伝いが「ある」子どもは、「ない」子どもと比較して、「朝起きたときや夜寝る前に必ず家の人にあいさつする」割合は、約15ポイント高い。
- 「あいさつ」に関する項目ほど大きな差はないが、「学校生活がとても楽しい」「授業で「わかる」「できる」と感じている」「朝食を毎朝食べる」「宿題がなくともほぼ毎日家庭学習を行う」などの項目で、手伝いや仕事がある」と答えた児童生徒の方が「ない」と答えた児童生徒より3～8ポイント高い。
- 「子どもの体験活動に関するアンケート調査」（平成10年度文部科学省調査）では、家庭でお手伝いをしている度合いと「友だちが悪いことをしていたら、やめさせる」「バスや電車で席をゆずる」といった道徳観・正義感との関係をクロス集計したところ、手伝いをしている子どもほど、「道徳観・正義感」が身に付いている傾向が見られたという報告がある。また、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（平成16年度東京都実施）の結果でも、意識調査と教科の正答率を関連させた分析で、「家の手伝いや地域に役立つこと」を「続けてしている」「時々している」と回答した児童の平均正答率は、「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童の平均正答率より高いという結果がある。
- 保護者が子どもの発達段階に応じて、家庭で子どもに決められた仕事や手伝いを与え、責任を持ってやらせることは、家族の一員としての所属感を高めるとともに、子どもの責任感や自己有用感を育てる意味からも重要なことである。

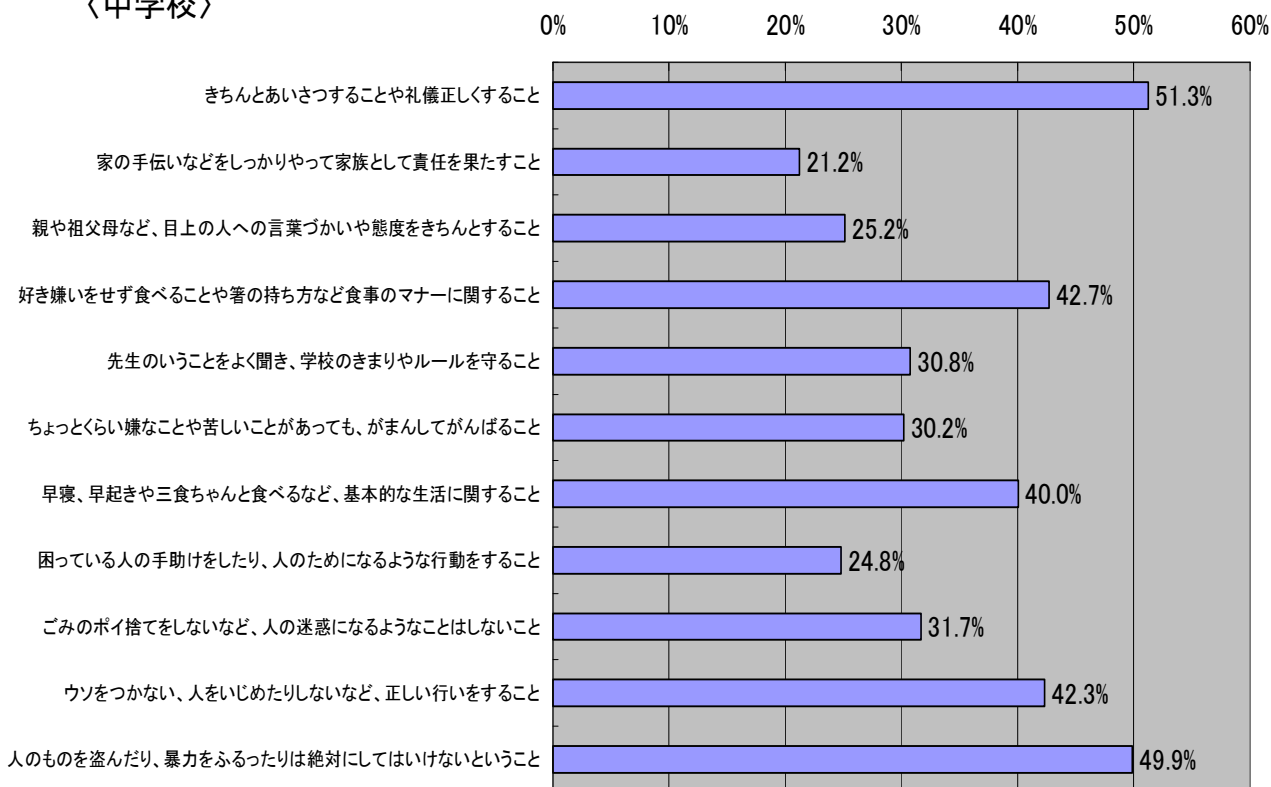
**問26 あなたが、小さい頃からお父さんやお母さんに言われ、いつも心がけていることはどんなことですか。（○はいくつつけてもいいです。）**

〈小学校〉



- 当てはまる項目には、いくつ○をつけてもいい設問であったが、一番高い数値でも、「きちんとあいさつをすることや礼儀正しくすること」の51.2%で、ほぼ半数程度である。
- 男女間で大きな差異は見られないが、「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことがあっても、がまんしてがんばること」を除いては、ほとんどの項目で女子の数値が高い。

### 〈中学校〉



- 「きちんとあいさつをすることや礼儀正しくすること」51.3%であり、他の上位の項目についても小学校と同様の傾向にある。
- 全体的に小学校より数値は下がる。中学生の自立傾向など、発達段階の特徴があると考えられる。数値から、子どもへのしつけは、親の影響力の大きな幼児期、小学校段階がより重要であることが確認できる。
- 男女間では大きな差異は見られないが、「先生のいうことをよく聞き、学校のきまりやルールを守ること」「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことがあっても、がまんしてがんばること」「ごみのポイ捨てをしないなど、人の迷惑になるようなことはしないこと」の3項目以外は、女子の数値が高い。



問27 今住んでいる地域（町内）や長岡市のことについて質問します。次のようなことをした経験がありますか。

① 近所のおとなといっしょに遊んだりスポーツをした。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	12.6%	27.6%	19.0%	40.7%
	5年生	9.5%	26.4%	20.8%	43.3%
	6年生	8.3%	25.7%	24.9%	41.1%
	小学全体	10.2%	26.6%	21.6%	41.7%
中学校	1年生	9.7%	26.4%	25.4%	38.5%
	2年生	6.9%	23.0%	25.3%	44.8%
	3年生	8.0%	19.7%	25.0%	47.3%
	中学全体	8.2%	23.1%	25.2%	43.5%

- 小学校で「かなりある」「たまにある」と答えた割合は36.8%、中学校では31.3%であり、学年の差による大きな変化はない。男女の比較では、「かなりある」「たまにある」は、若干男子の方が多い。
- 平成15年度「長岡っ子の家庭生活」では、「何度もある」は小学校11.0%、中学校9.5%であり、大きな変化は見られない。

② 町内のお祭りや運動会など地域の行事に参加した。

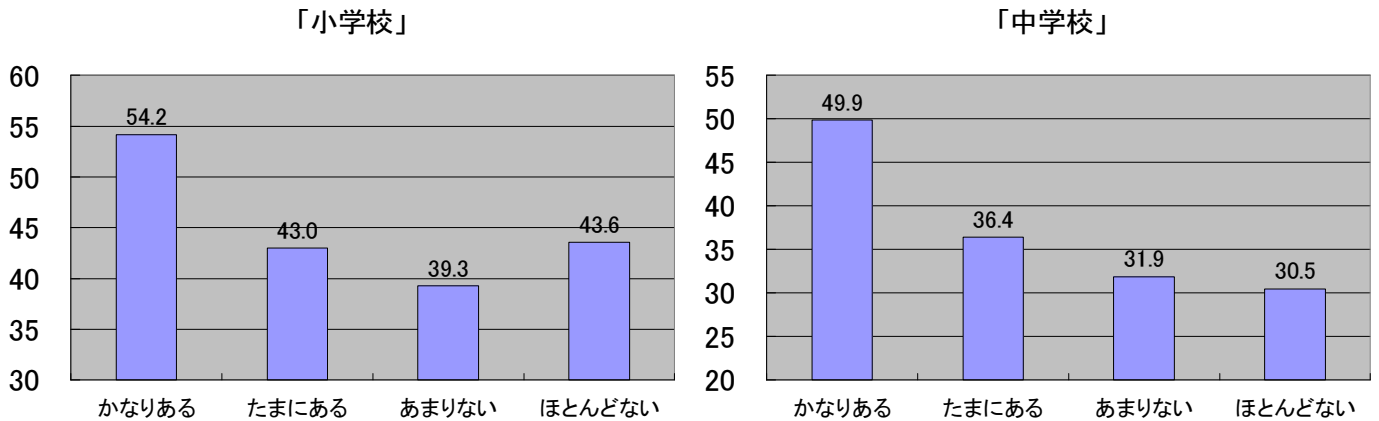
種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	65.6%	22.5%	7.0%	5.0%
	5年生	65.6%	24.0%	5.1%	5.2%
	6年生	68.8%	22.2%	5.9%	3.1%
	小学全体	66.7%	22.9%	6.0%	4.4%
中学校	1年生	55.0%	33.1%	7.5%	4.3%
	2年生	36.4%	40.4%	13.1%	10.1%
	3年生	31.1%	37.3%	18.0%	13.7%
	中学全体	40.9%	36.9%	12.9%	9.3%

- 小学生は「かなりある」66.7%、「たまにある」22.9%で、学年、男女別での大きな差もなく、多くの児童が、地域の運動会や行事等に参加している様子が伺える。
- 中学校は、「かなりある」は、中学1年生の55.0%から3年生になると31.1%と減少し、「ほとんどない」が13.7%に増加する。
- 町内や地域の行事は、それぞれの町内や地域によってその取組は様々である。多くの小中学生が参加する地域もあれば、そのような活動がない地域もあり、町内や地区の差もあると考えられる。

〈参考〉本調査からわかる地域の行事（お祭りや運動会）への参加状況とその他の項目との関連

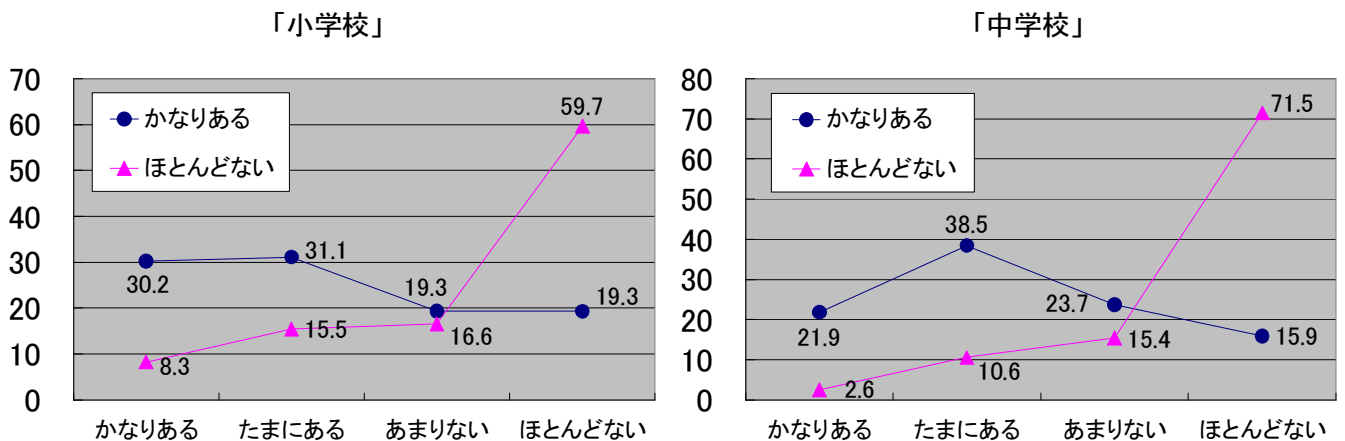
（地域のお祭りや運動会などの参加状況との違いによる各項目の割合）

◇ 学校生活が「とても楽しい」と回答した子どもの割合



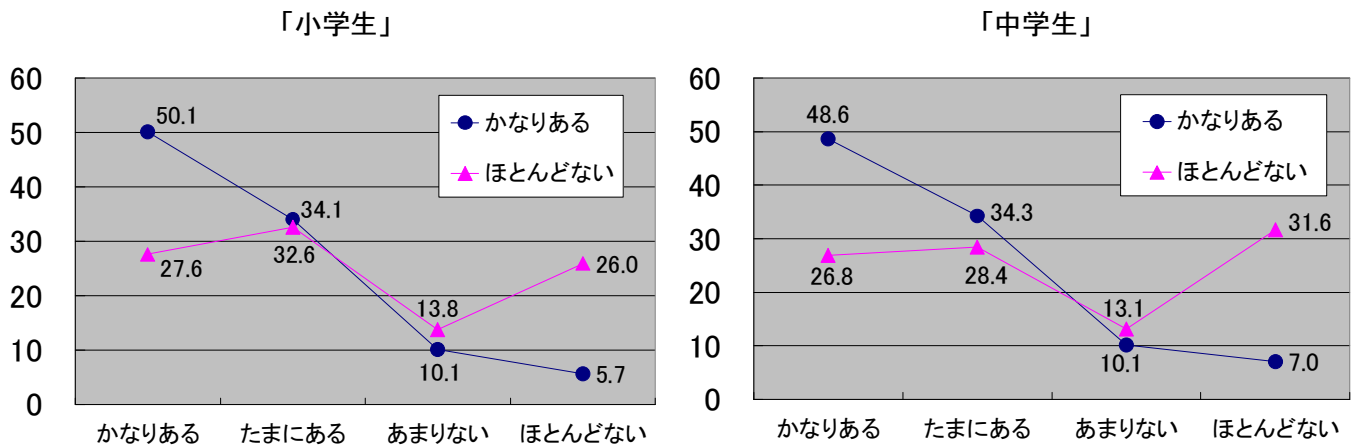
- 町内のお祭りや運動会など地域の行事に参加したことが「かなりある」と回答した子どもほど、学校生活が「とても楽しい」と感じている割合が高い。町内や地域の行事に参加する積極性やそこでできた人間関係（大人や子ども同士）などが学校生活の充実に関係していると考えられる。

◇ 地域（町内）のボランティア活動への参加



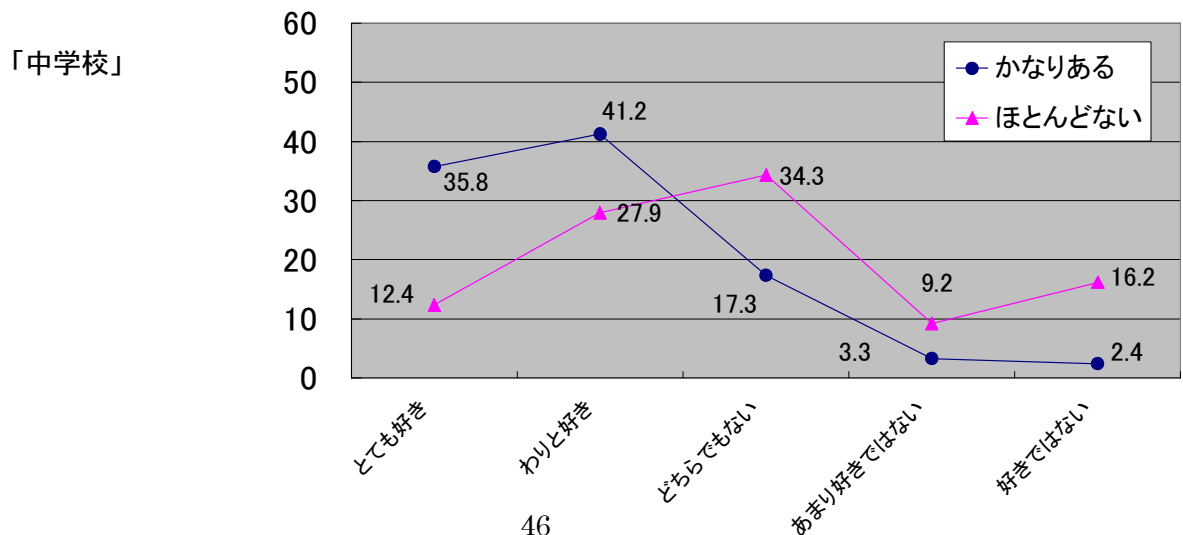
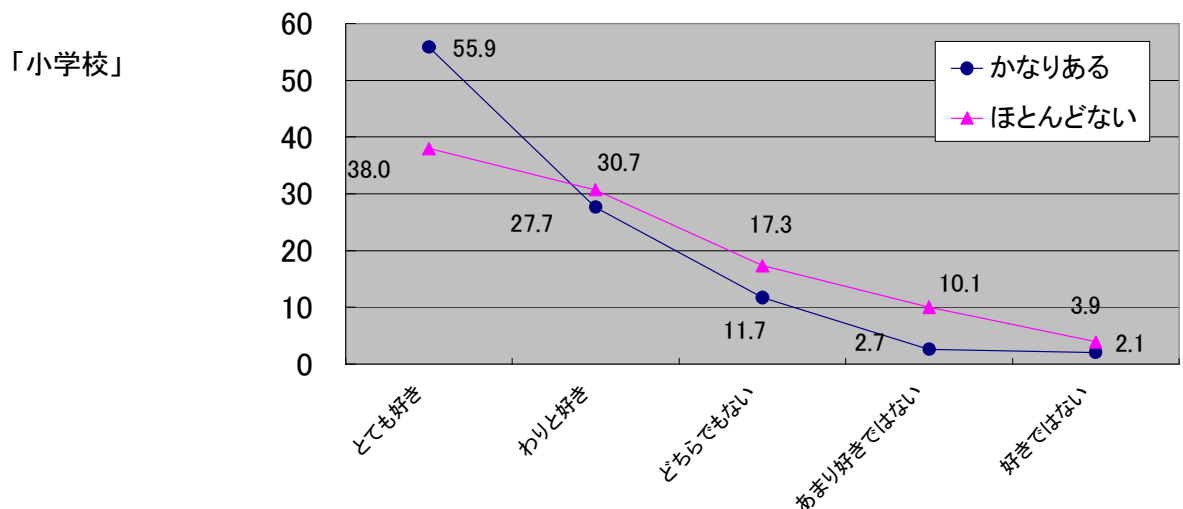
- 地域のお祭りや運動会などの参加状況と地域のボランティア活動への参加状況は密接な関連がある。

◇ 道路であったときなど近所や地域のおとなとあいさつをかわすこと



○ 地域の行事に積極的に参加している子どもほど、近所の人と道路であった時などのあいさつの機会が多い。また、小学校、中学校で数値に大きな差はない。

◇ 住んでいる地域（町内）への肯定感。「今、住んでいる地域（町内）が好きですか。」という質問に、答えた割合



- 地域(町内)の行事等に積極的に参加している子どもほど、自分の住んでいる町内が「とても好き」「わりと好き」という割合が多く、「あまり好きではない」「好きではない」の割合が少ないことから、地域や町内への肯定感が強いことがわかる。

③ いたずらや悪いことをして、町内や地域のおとなにしかられた。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	1.4%	6.3%	14.7%	77.6%
	5年生	1.5%	7.2%	16.9%	74.4%
	6年生	1.5%	7.4%	19.6%	71.4%
	小学全体	1.5%	7.0%	17.1%	74.5%
中学校	1年生	1.1%	10.0%	19.8%	69.2%
	2年生	2.0%	8.4%	19.6%	70.0%
	3年生	1.3%	9.0%	18.0%	71.7%
	中学全体	1.5%	9.1%	19.1%	70.3%

- 「かなりある」は小中学生とも1.5%であり、「たまにある」と合計すると10%前後である。子どもたちの遊びが地域の道路や公園から、家の中でのゲーム等に移り、地域の人と接して怒られるような機会が減ったことが大きな原因ではないかと考えられる。また、隣近所や地域のつながりが薄れ、大人が近所の子どもや町内の子どもを叱るようなことを遠慮する傾向がある表れとも考えられる。

〈参考〉保護者意識調査

問16③ 地域の子どものいたずらや悪いことをしたときにしかること		
	かなりある	たまにある
小学校保護者	7.1%	59.3%
中学校保護者	5.2%	48.5%
保護者全体	6.5%	55.7%

- 保護者意識調査では、「かなりある」6.5%、「たまにある」55.7%で、合計すると62.2%の保護者が「地域の子どものいたずらや悪いことをしたときにしかることがある」と回答しており、実際の子どもの様子とは、大きなずれがある。おとなは叱ったつもりでも、子どもたちにはそのように届いていないようなケースがあるのではないかと考えられる。

④ 良いことをして、「いい子だね」などと町内や地域のおとなにほめられた。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	16.2%	46.2%	21.9%	15.6%
	5年生	9.0%	45.0%	26.6%	19.4%
	6年生	6.7%	41.9%	28.5%	22.9%
	小学全体	10.7%	44.4%	25.6%	19.3%
中学校	1年生	7.9%	40.9%	30.7%	20.5%
	2年生	7.0%	32.0%	30.6%	30.3%
	3年生	6.5%	30.5%	33.6%	29.4%
	中学全体	7.1%	34.5%	31.6%	26.7%

- 小学生では、「かなりある」が10.7%、「たまにある」が44.4%であり、55.1%の児童が、町内や地域のおとなからほめられた経験を持っている。
- 小学校と中学校の比較では、「たまにある」が約10ポイント減少し、「あまりない」「ほとんどない」が増加する。中学生になると地域の行事等への参加も減り、町内や地域のおとなとの関わりが減少することが要因のひとつであると考えられる。

〈参考〉保護者意識調査

問16④ 町内や地域の子どもの良いことをしたときにほめること		
	かなりある	たまにある
小学校保護者	11.2%	59.4%
中学校保護者	9.0%	51.2%
保護者全体	10.5%	56.7%

- 保護者の意識と子どもの実態は、叱られた経験と比較すると極端に大きい差は見られず、おとながほめたことは、叱ることよりも、子どもの経験や印象として強く残るのではないかと考えられる。

⑤ 地域のボランティア活動などに参加した。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	25.4%	30.2%	19.8%	24.7%
	5年生	24.0%	29.3%	22.4%	24.3%
	6年生	20.2%	31.7%	23.6%	24.5%
	小学全体	23.2%	30.4%	21.9%	24.5%
中学校	1年生	14.5%	31.0%	30.8%	23.8%
	2年生	9.9%	28.8%	30.5%	30.8%
	3年生	8.6%	31.7%	28.0%	31.7%
	中学全体	11.0%	30.5%	29.8%	28.8%

- 小学校は、「かなりある」23.2%、「たまにある」30.4%であり、53.6%の児童がある程度地域のボランティア活動に参加していると答えている。男女別で大きな差異は見られない。
- 中学校は「かなりある」11.0%、「たまにある」30.5%、合計すると41.5%となり、小学校と比較すると約12ポイント減少する。

〈参考 保護者意識調査〉

	問16⑤ 地域のボランティア活動などへの参加について			
	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校保護者	11.4%	37.2%	27.6%	23.8%
中学校保護者	11.0%	39.6%	24.9%	24.5%

- 児童生徒と保護者の実態は、数値的に大きな差がない。地域のボランティア活動等への子どもの参加は、保護者の意識や参加状況と関係が深いと考えられる。

⑥ 道路であったときなど、町内や地域のおとなとあいさつをかわしている。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	42.1%	36.1%	12.6%	9.2%
	5年生	44.3%	36.5%	11.8%	7.4%
	6年生	46.8%	35.5%	10.8%	6.8%
	小学全体	44.4%	36.1%	11.7%	7.8%
中学校	1年生	44.3%	35.0%	13.2%	7.5%
	2年生	33.6%	35.4%	16.3%	14.7%
	3年生	33.4%	38.7%	13.6%	14.2%
	中学全体	37.1%	36.4%	14.4%	12.1%

- 小学校では「かなりある」44.4%、「たまにある」36.1%であり、80.5%の児童が町内や地域の人とある程度あいさつができていく様子である。
- 中学校では、1年生は小学生とほぼ同様の数値であるが、2年生になると「かなりある」が約10ポイント減少し、「ほとんどない」が倍増する。アンケートの様々な質問項目の結果で、中学2年生からあまり好ましくない傾向への数値の変化が大きいことが認められる。思春期の成長過程のひとつでもあると言えるが、好ましい生活習慣を定着、維持していくために中学1年生から2年生に向けて保護者、学校がより一層心がけていく必要がある。

〈参考〉保護者意識調査

問16⑥ 町内や地域の子どもと道であったとき、あいさつをしたり声をかけたりすることについて		
	積極的にしている	時々している
小学校保護者	41.1%	49.5%
中学校保護者	38.4%	50.0%
保護者全体	40.2%	49.7%

- 約90%の保護者は、町内や地域の子どもたちと道であったとき、あいさつをしたり声をかけたりすることを「積極的にしている」「時々している」と答えている。子どもたちの町内や地域との関わりを大切にしながら、あいさつ等の習慣やコミュニケーション能力をつけるためにも、このよう日常の関わりは大切である。
- 現在、児童生徒の安全確保等にむけた保護者・地域の取組が行われている。このような、地域全体で子どもの成長を見守るという意識と具体的な行動が、これからも大切であると考えられる。

⑦ 地域の伝統や歴史について教えてもらった。

種別	学年	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	4年生	8.5%	20.9%	26.9%	43.7%
	5年生	8.0%	18.7%	27.6%	45.7%
	6年生	6.9%	16.3%	27.3%	49.5%
	小学全体	7.8%	18.6%	27.3%	46.3%
中学校	1年生	7.6%	16.3%	31.3%	44.8%
	2年生	5.9%	12.9%	30.5%	50.6%
	3年生	2.9%	12.3%	29.5%	55.2%
	中学全体	5.5%	13.9%	30.5%	50.2%

- 「かなりある」「たまにある」は、小学校26.4%、中学校19.4%である。若干の違いはあるが、小学校、中学校で全体の傾向としては大きな差はない。
- 保護者の意識と児童生徒の様子はほぼ同様であるといえる。地域で伝統文化等を子どもに教えるような機会が減少するとともに、それらに携わるおとなや子どもも、地域によってある程度限られてきているのではないかと考えられる。

〈参考〉保護者意識調査

問16⑦町内や地域の伝統行事や文化、歴史について教えるような活動について		
	積極的にしている	時々している
保護者全体	3.7%	15.1%

問28 今、住んでいる地域（町内）が好きですか。

〈小学校〉

学年	性別	とても好き	わりと好き	どちらともいえない	あまり好きではない	好きではない
4年生	男子	397	191	74	19	22
	女子	397	178	85	20	16
	小計	794	369	159	39	38
		56.8%	26.4%	11.4%	2.8%	2.7%
5年生	男子	362	202	76	31	22
	女子	340	208	97	26	15
	小計	702	410	173	57	37
		50.9%	29.7%	12.5%	4.1%	2.7%
6年生	男子	317	266	107	21	21
	女子	281	225	106	24	20
	小計	598	491	213	45	41
		43.1%	35.4%	15.3%	3.2%	3.0%
合計	男子	1,076	659	257	71	65
		50.6%	31.0%	12.1%	3.3%	3.1%
	女子	1,018	611	288	70	51
		50.0%	30.0%	14.1%	3.4%	2.5%
合計	2,094	1,270	545	141	116	
		50.3%	30.5%	13.1%	3.4%	2.8%

〈中学校〉

学年	性別	とても好き	わりと好き	どちらともいえない	あまり好きではない	好きではない
1年生	男子	186	224	119	27	26
	女子	166	231	118	21	12
	小計	352	455	237	48	38
		31.2%	40.3%	21.0%	4.2%	3.4%
2年生	男子	140	223	134	31	43
	女子	125	217	143	50	16
	小計	265	440	277	81	59
		23.6%	39.2%	24.7%	7.2%	5.3%
3年生	男子	100	221	159	36	30
	女子	96	232	176	34	29
	小計	196	453	335	70	59
		17.6%	40.7%	30.1%	6.3%	5.3%
合計	男子	426	668	412	94	99
		25.1%	39.3%	24.2%	5.5%	5.8%
	女子	387	680	437	105	57
		23.2%	40.8%	26.2%	6.3%	3.4%
	合計	813	1,348	849	199	156
	24.2%	40.1%	25.2%	5.9%	4.6%	

- 小学校は「とても好き」「わりと好き」を合計すると、80.8%である。比較的、住んでいる地域（町内）には好感を持っているといえる。学年の比較では、「とても好き」が4年生で56.8%であるが、6年生では43.1%に減少し、「わりと好き」が増える。男女別での差はない。
- 中学生になると、「とても好き」が、中学1年生の31.2%から、3年生では17.6%に減少し、「どちらともいえない」が約10ポイント増加する。このような意識は、地域の行事等への参加状況等と関連していると思われる。
- 平成15年度調査との比較では、小学校、中学校ともに地域への肯定感はずかながら上昇している。

〈参考〉

今、住んでいる町内が好きですか「長岡っ子の家庭生活：平成15年（長岡市生徒指導研究会）」					
	とても好き	わりと好き	どちらでもない	あまり好きではない	全然好きではない
小学校全体	40.4%	32.9%	18.3%	5.5%	2.6%
中学校全体	23.0%	35.2%	27.7%	8.4%	5.0%



問29 あなたは、長岡市が好きですか。

種別	学年	とても好き	わりと好き	どちらともいえない	あまり好きではない	好きではない
小学校	4年生	59.1%	26.0%	11.0%	1.9%	1.9%
	5年生	48.8%	29.8%	15.4%	3.9%	2.1%
	6年生	40.2%	36.0%	17.2%	3.8%	2.7%
	小学全体	49.4%	30.6%	14.5%	3.2%	2.3%
中学校	1年生	34.2%	40.3%	19.6%	3.5%	2.6%
	2年生	24.4%	38.6%	26.6%	5.1%	5.3%
	3年生	16.9%	41.5%	31.1%	6.2%	4.3%
	中学全体	25.2%	40.1%	25.7%	4.9%	4.1%

- 小学校は、「とても好き」49.4%、「わりと好き」30.6%である。また、中学校は「とても好き」25.2%、「わりと好き」40.1%で、小学校、中学校ともに、全体的な傾向や学年ごとの推移は、問28の「今、住んでいる地域（町内）が好きですか。」と同様である。
- 中学生になると、行動範囲が広くなるとともに、視野が広まり、長岡市以外の都市に行ったり、情報を得たりする中で、長岡市を単純に「とても好き」と言い切れない部分が生じてくるのではないかと推察できる。
- 「あまり好きではない」「好きではない」という子どもは、学年を追うごとに上昇する傾向はあるが、小学校6年生は6.5%、中学校3年生で10.5%と大きく増えるわけではない。

問30 あなたは将来（おとなになっても）、長岡市に住みたいですか。

種別	学年	ぜったい住みたい	できれば住みたい	どちらともいえない	あまり住みたくない	住みたくない
小学校	4年生	23.2%	42.5%	22.4%	5.1%	6.8%
	5年生	15.3%	39.3%	32.7%	6.5%	6.2%
	6年生	8.4%	34.0%	41.4%	7.5%	8.6%
	小学全体	15.7%	38.6%	32.1%	6.4%	7.2%
中学校	1年生	6.5%	28.5%	48.9%	8.1%	8.1%
	2年生	5.3%	22.7%	49.9%	12.2%	9.9%
	3年生	4.3%	20.3%	52.2%	11.8%	11.4%
	中学全体	5.4%	23.9%	50.3%	10.7%	9.8%

- 「ぜったい住みたい」「できれば住みたい」とともに、小学校4年生の数値が最高で、学年が上がるごとに減少し、中学校3年生では「ぜったい住みたい」4.3%、「できれば住みたい」20.3%となり、「どちらともいえない」は52.2%と一番多くなる。
- 長岡市への愛着はあるが、将来のことまではっきりとはわからないという子どもの気持ち「どちらともいえない」という数値に表れていると考えられる。

問3 1 あなたは将来の夢がありますか。(どんなことでもいいです。)

〈小学校〉

学年	性別	ある	ない
4年生	男子	619	88
	女子	640	55
	小計	1,259	143
		89.8%	10.2%
5年生	男子	593	101
	女子	628	58
	小計	1,221	159
		88.5%	11.5%
6年生	男子	624	109
	女子	582	74
	小計	1,206	183
		86.8%	13.2%
合計	男子	1,836	298
		86.0%	14.0%
	女子	1,850	187
		90.8%	9.2%
合計	3,686	485	
		88.4%	11.6%

〈中学校〉

学年	性別	ある	ない
1年生	男子	484	98
	女子	482	66
	小計	966	164
		85.5%	14.5%
2年生	男子	431	141
	女子	451	99
	小計	882	240
		78.6%	21.4%
3年生	男子	392	153
	女子	442	123
	小計	834	276
		75.1%	24.9%
合計	男子	1,307	392
		76.9%	23.1%
	女子	1,375	288
		82.7%	17.3%
合計	2,682	680	
		79.8%	20.2%

- 「夢がある」という小学生は全体の88.4%である。学年間の大きな差はないが、学年が上がるにつれ、「夢がある」という割合は減少する。男女別では、「ない」という男子は14.0%、女子は9.2%であり、男子の数値が高い。
- 中学生でも、「夢がある」は、1年生の85.5%から減少し、3年生では75.1%となり、約1/4の生徒が、将来の夢を持っていないと答えている。
- 学年が上がると、「夢がある」という数値が下がるのは、生徒の意識が「夢」といったことから現実的な「目標」に変化するためであるとも考えられる。
- 長岡市の進める、熱中！感動！夢づくり教育の目指すことは、「どの子にも夢と自信を持たせる教育」の実現である。どんなことでもいいから、「自分の夢がある。」と自信を持って言える子どもを育てるために、家庭、地域、学校で連携するとともに、大人が夢と自信を持って生きる姿を見せ、子どもに積極的にかかわっていくことが重要であると考える。